

337.3

Y685d

独逸併合地及占領地の通貨工作

国立国会図書館



* 0027874000 *

0027874-000

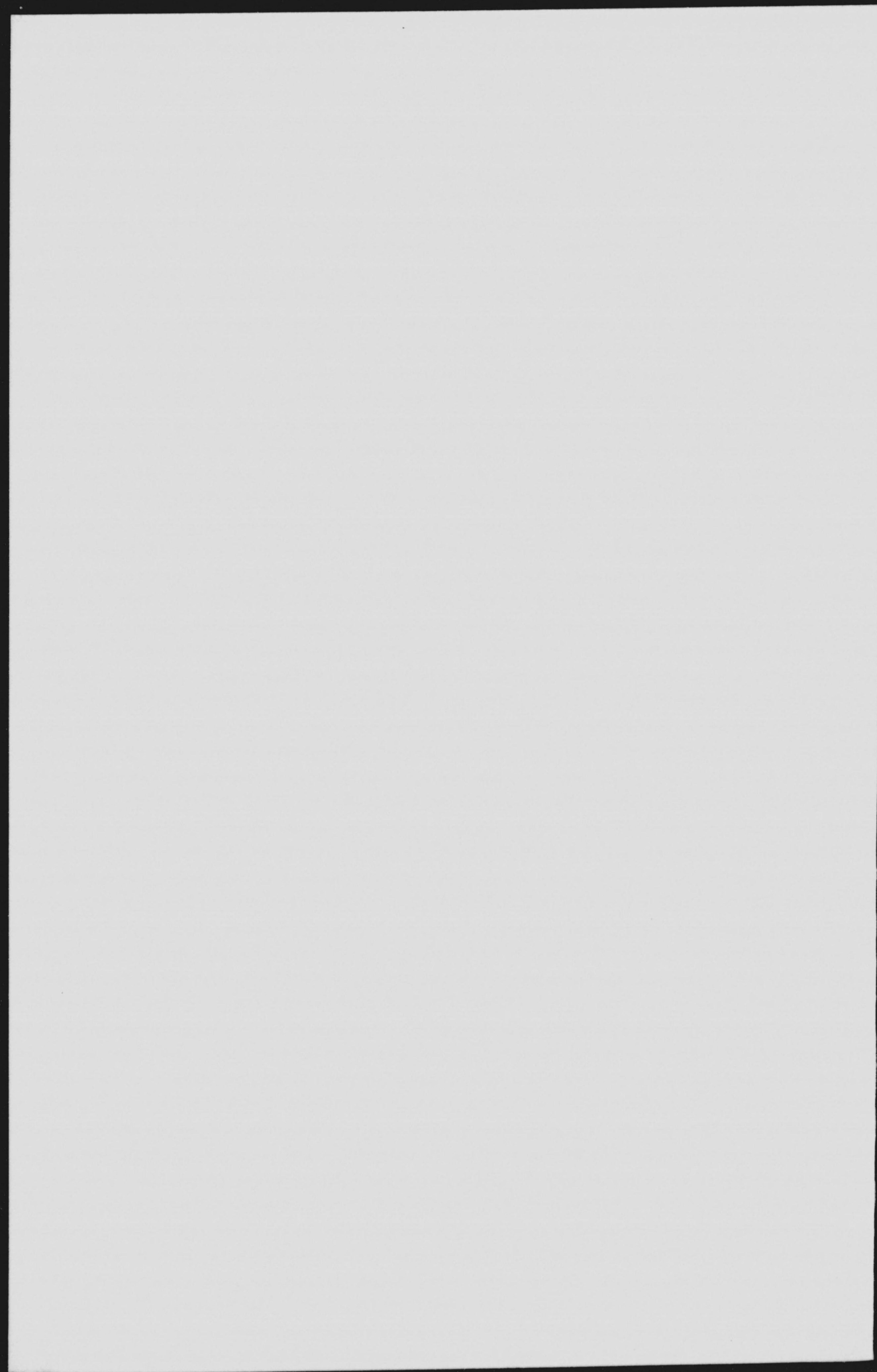
337.3-Y685d

独逸併合地及占領地の通貨工作

横浜正金銀行調査部

1941

ADH



エト2E-61

337.3
Y685d

報告第二百二十四號 (昭和十六年十一月二十日)

獨逸併合地及占領地の通貨工作

横濱正金銀行調査部

序

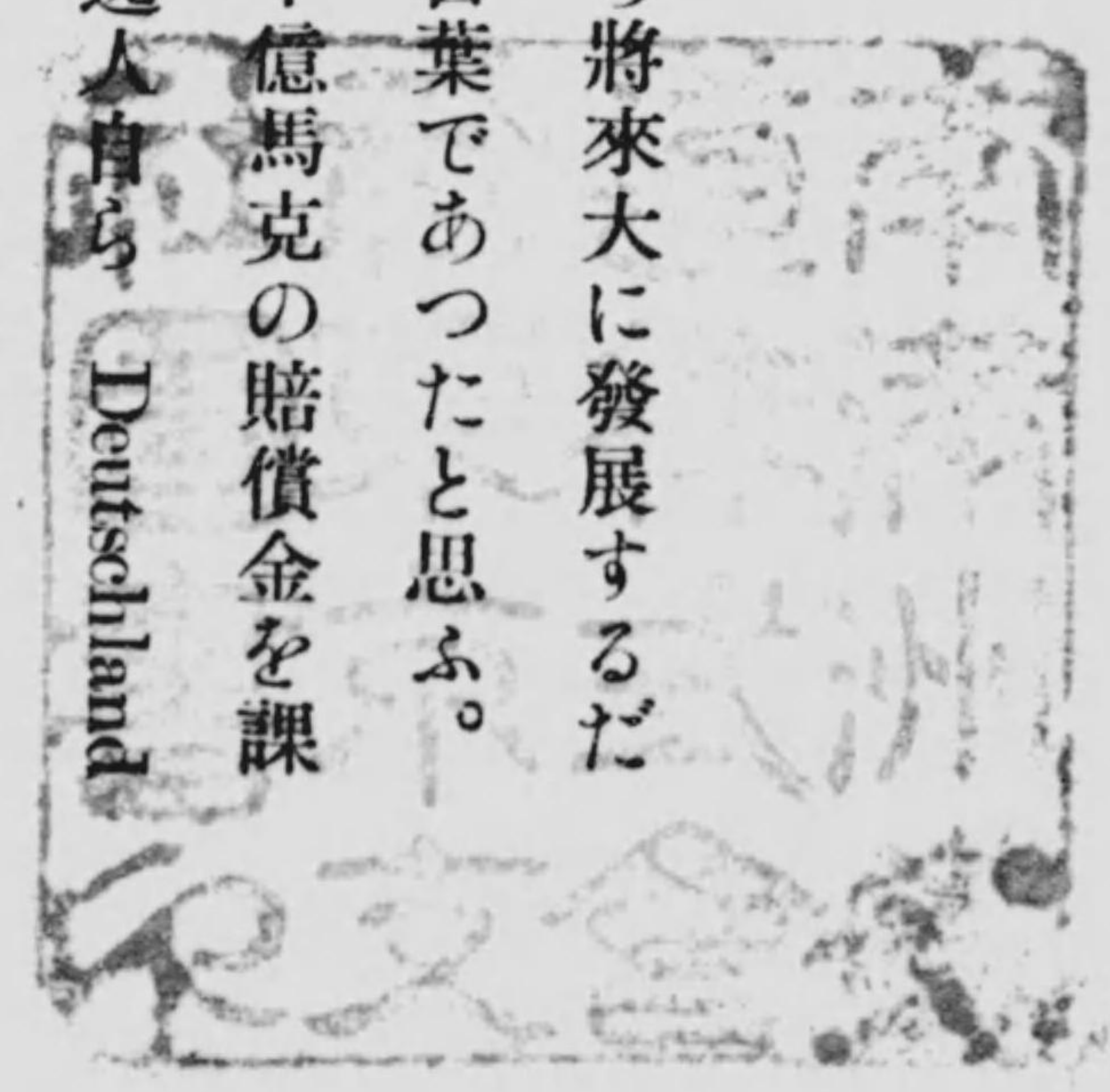
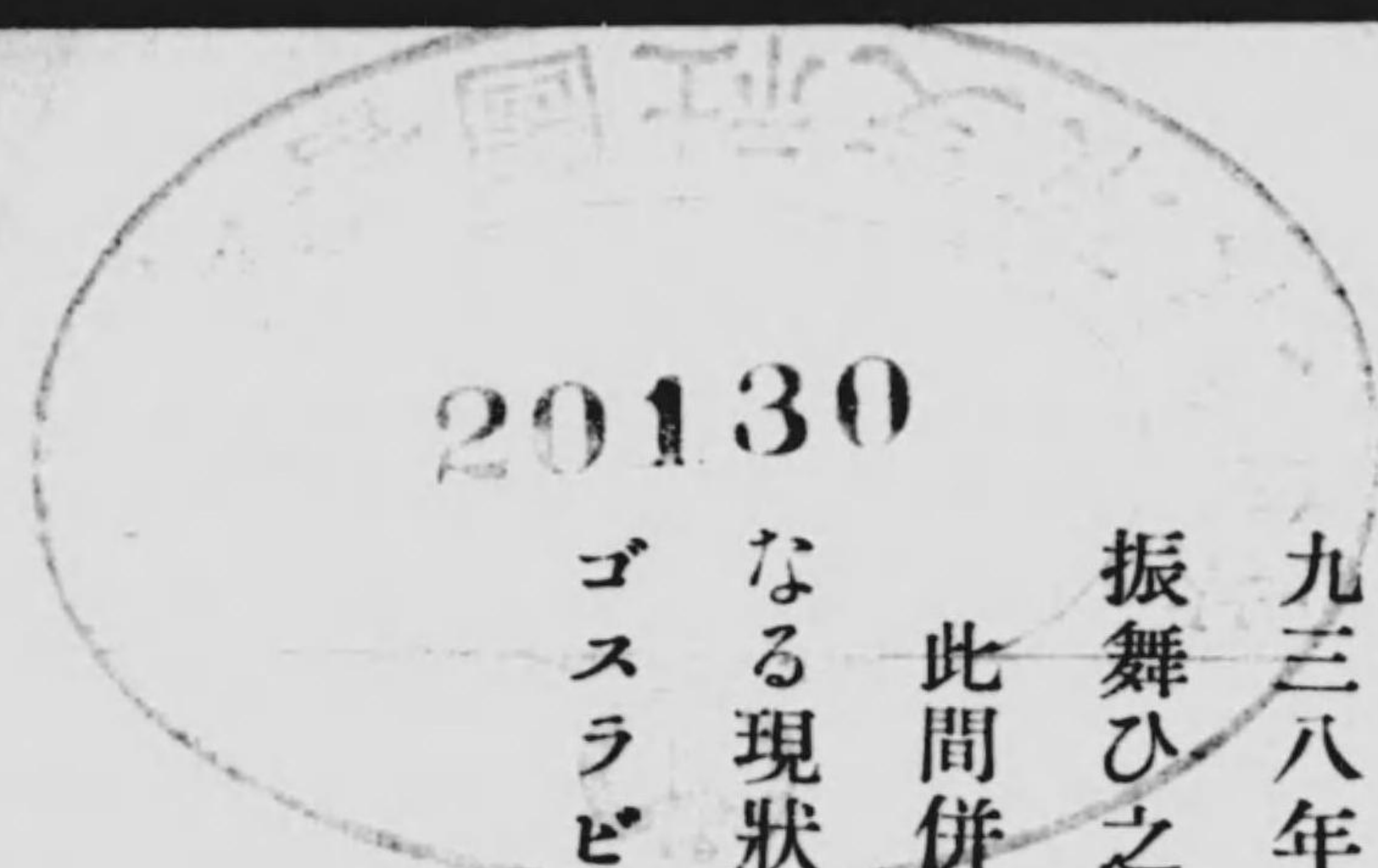
「麥は踏みつければ踏みつける程伸びる。獨逸も散々踏みつけられたから將來大に發展するだらう」とは徳富蘆花が前大戰直後敗戦獨逸を訪ねた時、一獨逸人を慰めた言葉であつたと思ふ。

一九一九年六月二十八日のベルサイユ條約で植民地は取られ、千三百二十億馬克の賠償金を課せられ、兵力十萬に制限され散々踏みつけられて見る影もなく落ぶれ、獨逸人自ら Deutschland kaputt と嘆き自暴自棄のどん底に陥つた。時恰も獨逸南方の一角よりヒットラー現れベルサイユ條約破棄を標榜して立つた彼は遂に一九三三年天下を取るやベルサイユ條項を次々に破棄し、一九三八年三月奧太利の併合を契機として東はチェッコ、波蘭を始め北に、西に、南に縦横無盡に振舞ひ之を征服し、今又鉾をソ聯に轉じ歐洲新秩序を建設せんとして居る。

此間併合地及占領地に於ける複雑多彩なる通貨工作特に通貨及軍票が如何なる行程を辿り如何なる現状にあるか吾々に必要なのである。因つて茲に一括して稿を草した次第であるが、ユーゴスラビア・希臘・ソ聯に就ては未だ詳かでないから他日に譲る事とする。

昭和十六年八月

櫻井生



337.3
Y685d



117789

獨逸併合地及占領地の通貨工作

目次

一、概説……………一

(イ) 併合地の通貨工作……………一

(ロ) 占領地の通貨工作……………三

第一、軍票使用の理由……………三

第二、軍票の正體……………四

第三、軍票の價值維持對策……………五

第四、軍票の流通狀況……………七

第五、波蘭及白耳義の新發行銀行……………八

第六、爲替管理……………九

第七、獨逸と占領地間の爲替清算協定……………二

第八、結……………三

二、各併合地及占領地の通貨工作

埃 太 利

(イ) 併合後の通貨工作

(ロ) 爲替管理

ズデーテン・ドイツ地方

(イ) 併合後の通貨工作

(ロ) 馬克に書替令

(ハ) 爲替管理

ボヘミア・モラビア保護領

(イ) 保護領後の通貨工作

(ロ) 爲替管理

メーメル地方

(イ) 併合後の通貨工作

(ロ) 馬克に書替令

(ハ) 爲替管理

ダンチヒ市

(イ) 併合後の通貨工作

(ロ) 馬克に書替令

(ハ) 爲替管理

波 蘭

A. 東部地方 (Ostgebiet)

(イ) 併合後の通貨工作

(ロ) 馬克に書替令

(ハ) 爲替管理

B. 總督府 (Generalgouvernement)

(イ) 占領後の通貨工作

(ロ) 爲替管理

C. 信用金庫證券 (軍票)

D. 新波蘭發行銀行

E. 舊波蘭プロテー貨の行方

オイペン、マルメデー及モレスネ……………三六

(イ) 併合後の通貨工作……………三六

(ロ) 馬克に書替令……………三六

(ハ) 爲替管理……………三六

丁抹、諾威、和蘭、白耳義、ルクサンブール、佛蘭西の

信用金庫證券(軍票)……………四〇

A. 信用金庫の設立、目的及組織……………四〇

B. 信用金庫の業務及發行準備……………四二

C. 信用金庫證券の流通狀況……………四三

丁 抹……………四四

(イ) 占領後の通貨工作……………四四

(ロ) 爲替管理……………四五

諾 威……………四五

(イ) 占領後の通貨工作……………四五

(ロ) 爲替管理……………四五

和 蘭……………四六

(イ) 占領後の通貨工作……………四六

(ロ) 爲替管理……………四七

白 耳 義……………四九

(イ) 新發行銀行及信用金庫證券……………四九

(ロ) 爲替管理……………五一

ルクサンブール……………五二

(イ) 占領後の通貨工作……………五三

(ロ) 馬克に書替令……………五三

(ハ) 爲替管理……………五三

佛 蘭 西……………五四

(イ) 占領後の通貨工作……………五四

(ロ) 爲替管理……………五五

アルサス及ローレンス……………五六

(イ) 占領後の通貨工作

(ロ) 爲替管理

三、獨逸併合地及占領地の通貨工作日誌

奥 太 利

ズデーテン・ドイツ地方

ボヘミア・モラビア保護領

メーメル地方

ダンチヒ市

波 蘭

オイベン、マルメデー及モレスネ

丁 抹

諾 威

和 蘭

白 耳 義

ルクサンブル

佛 蘭 西

アルサス及ローレンス

四、獨逸併合地及占領地の貨幣現狀一覽表

獨逸併合地及占領地の通貨工作

頭取席調査部 櫻井曜弘稿

一、概 説

獨逸は併合又は占領と同時に先づ被併合地通貨又は被占領地通貨と馬克とを不取敢暫定處置として併用し、其間の換算率を法定するのが常であり、馬克は獨逸貨幣其ものを使用する場合、別に馬克と同價の信用金庫貨幣(軍票)を發行して使用する場合とある。軍票を始めて使ひ出したのは波蘭占領からで其後丁抹・諾威占領以來ずつと侵入と同時に軍票を使用して來た。然し獨逸の通貨工作は併合地に對する工作と、占領地に對する工作と、其遺口が違つて居るから之を分けて説明する事とする。

(イ) 併合地の通貨工作

先づ併合地に對する通貨工作を見ると、不取敢被併合地の通貨と馬克を併用し、一定期間後、大體一ヶ月であるが其期間經過後馬克を法貨としてしまふのである。例へば塊太利、ズデーテン・ドイツ地方、ダンチヒ市、波蘭の

所謂東部地方(Ostgebiet)、オイペン、マルメデー及モレスネの場合はさうである。唯メーメル地方の場合は即時馬克のみを法貨としたし、又ボヘミア・モラビアの場合は保護領であるから馬克のみを法貨とせず、従来のクロイーネも法貨と定め兩建として其相場を法定した。

尤も補助貨である硬貨は小額貨幣の不足を補助すると云ふ意味もあつたらうし、又紙幣と違つてスマツグルしにくいと云ふ事もあつたから過渡期に於て、暫定的に流通を認めるが、之も段々其流通を禁止して、終ひには全部馬克にしてしまつた。

それから占領の場合も同じ事であるが必ず爲替管理を実施するが併合地に於ては獨逸の爲替管理法及トランスファ・モラトリアム法を適用し、即ち獨逸と併合地間の爲替境界を撤廢して、其間許可を要せずして自由に取引を可能ならしめるのである。獨逸爲替管理法を一々茲に述べる事は困難であるが要するに爲替管理法に依り金及外貨の集中及自由限度(Freigrenze)十馬克を超える外國又は外國人關係の取引には一切許可制を採用するのであるが、先づ差當り爲替管理令に依り、第一に從來の被併合地貨幣を被併合地に輸入する事を禁止するのが常であり、之は貨幣のスマツグルを防ぎ貨幣價值を維持する爲で、又金、金貨、外國支拂手段、外國有價證券等の申告義務及賣却義務を命じた。又トランスファ・モラトリアム法を適用し併合地の對外支拂例へば外國の公社債、株等の利子其他地代、家賃の様な一切の周期的支拂は之を國外に送金する事を停止したのである。

次に占領地對策と異なる所は法令を以て被併合地に於ける被併合地貨幣表示の債務關係(Schuldverhältnis)は凡て所定の換算率を以て馬克に書替へさせ、又物價、賃銀等も馬克建に改めさせ、又商人の財産目錄や帳簿及會社の資

本金、株式等も馬克に書替へる事を命ずる事である。

(ロ) 占領地の通貨工作

第一、軍票使用の理由

占領地の場合は併合地の様な具合に直ぐ馬克を使ふ事は出来ない。何となれば併合地は壞太利を除き元々獨逸領であつたがベルサイユ條約に依り獨逸から切離されたものをヒットラー總統が今度實力を以て獨逸に復歸併合したものであるから其所では馬克を使用し、又獨逸法規を適用するのは蓋し當然であらうし、且つ又併合は波蘭及オイペン、マルメデー、モレスネを除き無血併合であるから軍票を使用する必要もなかつた譯である。然るに丁抹、諸威、和蘭、白耳義、佛蘭西の如き占領地は外國、敵國であるからこんな所で馬克を矢鱈に使つたら馬克インフレとなり、通貨政策から見ても、爲替管理から見ても、又住民の心理作用から見ても馬克貨を其儘使ふ事は好ましくないからである。さりとて被占領地貨幣を使ふ事も出来ない。何となれば被占領地區は戰場と化し、和蘭、白耳義、佛蘭西の如く銀行モラトリアムが施行された許りでなく銀行其他信用機關も安全地區に避難し、其時には紙幣を持ち運んだり、或は帳簿を燒棄したり、或は紙幣印刷機を破壊若しくは持逃げして行くのであるから其土地の通貨を得ようとしても得られないからである。そこで斯る場合は普通軍票を使ふのである。獨逸も亦之等占領地に於て額面は馬克であるが獨逸貨幣と違つた軍票とも云ふべき信用金庫貨幣(Reichskreditkassengeld)を使った。獨逸では此信用金庫貨幣を俗に「軍隊貨幣」(Truppengeld)と云ひ、又之を發行する信用金庫(Reichskreditkasse)を

「軍隊銀行」(Soldatenbank)と云ひ居る。

第二、軍票の正體

然らば軍票とはどんなものかと云ふと戦争の時に敵國で軍隊が必要なる物資を購入する目的を以て使用する支拂手段であるが獨逸の軍票(Truppengeld)即ち信用金庫貨幣(Reichskreditkassengeld)は獨逸軍隊の支拂に用ゐる通貨調達のため特に設立した信用金庫(Reichskreditkasse)の發行する信用金庫證券(Reichskreditkassenschein)及信用金庫硬貨(Reichskreditkassenmünzen)を云ふのである。

此軍票に就ては後述するが波蘭で使つたものと、丁抹・諾威・和蘭・白耳義・ルクサンブル・佛蘭西で使つたものとは別ものである。前者は一九三九年九月波蘭占領軍司令官の命令に依り波蘭のロツツに設立した信用金庫の發行するものであるし、後者は一九四〇年五月國防會議長ゲーリング及大藏大臣の命令に依り伯林に設立した信用金庫の發行するものである。然し波蘭の方は間もなく解散してしまひ、現在の軍票は後者に屬するものであるから茲では此方を簡単に述べる。

信用金庫の資本金に就ては別に規定がない。發行紙幣額面は五十馬克、二十馬克、五馬克、二馬克、一馬克及五十布の六種類と、發行硬貨は十布と五布の二種であり、發行準備は金でなく、獨逸政府への貸上金其他貸付金、買入手形及小切手、獨逸支拂手段、外國支拂手段、ライヒスバンク預金、大藏省手形等である。

右發行準備中政府への貸上金限度を三十億馬克と規定したが波蘭の信用金庫の場合は之を十億馬克と定めた、之は當時の波蘭に於ける紙幣發行高に該當するものであるが、丁抹・諾威・和蘭・白耳義・佛蘭西の場合は之等諸國

の發行高を基礎としたものかどうか明かでないが試に當時の發行總額を馬克に換算して見ると大體百三十五億馬克になるから三十億馬克は約二割位に當る。

尙、信用金庫の「信用(Kredit)」の文字は右の様に政府に貸付けると云ふ所から來てる様である。

此軍票は勿論占領地に於てのみ使用出来るもので獨逸内では使用出来ない。獨逸軍隊が占領地で支拂つた軍票は市中を通じ占領地の中央銀行に入る。すると中央銀行は之を獨逸との清算協定を経由して清算するので、結局軍票は伯林の信用金庫本店に戻つて來る。然し後に獨逸軍隊が占領地で使ふ通貨を被占領地の中央銀行から直接其國の通貨で受取る様になつてから、丁抹・諾威・和蘭の中央銀行は軍票(信用金庫證券)を引當にするか又は獨逸信用金庫に貸の勘定として軍隊に供給し、又白耳義に於ては白耳義政府の信用に基き、又佛蘭西に於ては佛蘭西政府に貸付の形式で軍隊に紙幣を供給して居る。

第三、軍票の價值維持對策

然らば軍票即ち信用金庫證券の價值を如何に定め、又如何にして維持したかの問題であるが、軍票の價值を從來の馬克對被占領地貨幣の爲替相場と餘りに掛離れる事は勿論根據のない事であるから成るべく從來の比率を保ち、只購買力平價と云ふよりも換算の都合のよい様にラウンドナンバーに相場を定めたものと思はれる(次表参照)。(尤も併合地例へばズデーテンの場合は軍票ではないが馬克とゾロテーの相場を決定する時に物價指數を考慮して獨逸の物價が四割位高いと云ふ所から馬克を約四割安く評價した)。又其價值維持の爲めには軍票相場を無理に高價に見積らす寧ろ安價に見積り法定すると同時に信用金庫證券が法貨(Gesetzliche Zahlungsmittel)である事を聲明し、

住民に安心を與へ、又其發行及流通を出来る丈け統制し、必要の程度に止め、出来る丈け速かに回収に努め、被占領地の貨幣を使用する方針を取つたのである。尤も戦禍が大きく金融状態が急に回復しない所では軍票を軍隊のみならず一般通貨として使用された時であつたが、兎角現在に於ては殆ど回収された模様である。

然らば何故に軍票を使はずに其土着貨幣を使用する事に努めたかと云ふ事は、恐らく次の様な考でないかと思ふ。即ち軍票は飽迄中間貨幣であり恒久的のものでない、外國而かも敵國で馬克を使用する事は統制が困難であり、從て價值を維持する事も困難である、加之土着住民が自國の貨幣に對し自負心もあらうし、又經濟機構も生活標準も凡て其國の貨幣に習慣付けられて居る、例へば帳簿、物價、相場（公債、株式）も其國の貨幣で表示されて居るし、又日常の家計にしても月収に應じた生活標準があり、米國の一弗が日本の四、五圓に當るが米國人は恐らく一弗を吾々の一圓位に考へて居る様に各國夫々經濟機構も生活標準も違ふから、急に慣れない貨幣を使つて攪亂する事を避けると云ふ理念に立脚して居るものと思ふ。

軍票（信用金庫證券）相場

占領地	貨幣單位	侵入直前の爲替相場	占領當時の軍票相場	改定軍票相場
波蘭	一ツロテーに付	四七布〇五	五〇布	不變
丁抹	一丁抹クローネに付	四八布一〇	五〇布	不變
諾威	一諾威クローネに付	五六布六五	六〇布	五七布
和蘭	一ギルダーに付	一馬克三二三五	一馬克五〇布	一馬克三三三布

白耳義	一白耳義フランに付	八布三六	一〇布	八布
ルクサンブル	一ルクサンブルフランに付	一〇布四五	一〇布	不變
佛蘭西	一フランに付	五布六〇五	五布	不變

第四、軍票の流通狀況

軍票（信用金庫證券）を最も多く使用したのは波蘭、白耳義、佛蘭西で之等は最も獨逸軍に抵抗したと見え其占領地區の戦禍も最も大きく從つて信用金庫支店も各所に設けられた。然し波蘭に於ては其中央銀行が再建の見込なく、其他信用機關も崩壊してしまつたし、又白耳義の中央銀行は國外に逃避したので波蘭と白耳義には新に發行銀行を設立し、軍票の代りに其發行紙幣を獨逸軍隊并に一般市民に通用せしめる事にしたのである。尤も白耳義に於ては元の中央銀行がブラツセルに戻つて來たので舊白耳義紙幣を使ふ事にして新發行銀行を設立したが實際に於ては紙幣を發行しなかつた。佛蘭西に於ては開戦後間もなく六月十日佛蘭西政府も佛蘭西銀行も逃げ出して紙幣を持つて行つたから通貨は著しく不足を來たし、從て軍票を最も多く使用したが六月二十二日の停戦協定以後段々市場も平靜に復したので軍票も段々回收され今日では佛蘭西政府が獨逸軍隊の占領費用を出す事になり、軍隊は専ら佛蘭西中央銀行紙幣を使つて居る。尙、占領費用は最初一日四億フラン（二千萬馬克）であつたが本年五月三億フラン（千五百萬馬克）に減額された。

之に反し丁抹、諾威は餘り抵抗しなかつたから戦禍少く信用機關も無傷に残つて居つたので獨逸軍隊は軍票を殆ど使はずに、丁抹に於ては丁抹クローネ、諾威に於ては諾威クローネを使ひ、又和蘭に於ても最初各所に信用金庫

支店を設けたが和蘭銀行及市中銀行が獨逸軍隊に協力したので信用金庫支店は二ヶ月にして殆ど閉鎖され、現在アムステルダムに残つて居る丈であり、従つて軍票も短期間に殆ど回収されてしまつた。

要するに現在に於ては軍票は殆ど回収され獨逸軍隊は専ら被占領地貨幣を使つて居る。尙、波蘭に於ける信用金庫證券の發行高は約五千萬馬克と稱せられ、又丁抹・諾威・和蘭・白耳義・ルクサンブル・佛蘭西に於ける信用金庫證券の發行高は能く解らないが、之等國々の中央銀行の紙幣發行増加高が開戦前に比べ馬克に換算して大體四十億馬克位であるから之が全部信用金庫證券に基くものでないとしても相當發行されて居るものと思ふ。

第五、波蘭及白耳義の新發行銀行

波蘭及白耳義に於ては戰禍の程度甚だ大なるものあつたから新に發行銀行を設立して新に紙幣を發行し之を獨逸軍隊并に一般市民に流通せしむる事にした事は前述した通りである。

先づ波蘭の占領地即ち總督府 (Generalgouvernement) に於ては一九三九年十二月十五日總督令を以てクラカウに新波蘭發行銀行 (Emissionbank in Polen) を設立して一九四〇年四月八日より其發行するゾロテー紙幣を唯一の法貨と爲し、同時に軍票 (信用金庫證券) の發行を中止し、軍隊も一般市民も之を使用する事となつた。何故に新發行銀行を設立したかと云ふ事は前にも述べた通り元の波蘭中央銀行が駄目になつたと云ふ許りでなく舊波蘭紙幣は大部露領波蘭より密輸入され其防止に努めたが仲々統制が付かず手古摺つたから新紙幣を發行する事にしたものと思はれる。

又白耳義に於ても一九四〇年六月二十七日軍司令官の命令を以て新波蘭發行銀行に眞似て新にブルツセル發行銀

行 (Emissionbank in Brussel) を設立したが實際に於ては紙幣を發行しなかつた。何となれば曩に國外に逃避した白耳義中央銀行は後にブルツセルに戻つて來て紙幣や印刷機を持つて歸つたから先づ其紙幣を使用する事が差當り便利且つ心理的にも有利と考へたからであらう。然し新發行銀行は依然として存続し、主として清算機關 (Clearing-institute)、爲替管理機關及獨逸軍隊に通貨を供給する職務を負ふ事になり、之と同時に軍票 (信用金庫證券) の發行を中止し、獨逸軍隊は此新發行銀行から白耳義中央銀行紙幣の供給を受ける事になつたのである。

以上發行銀行の發行準備は手形、貸付金、獨逸支拂手段、外國支拂手段、ライヒスバンク預金、獨逸清算金庫預金等であつて、只此外波蘭の場合は土地負擔 (Grundlast) 即ちレンテンバンクの様に土地を發行準備にし、又白耳義の場合は軍票 (信用金庫證券) を發行準備にした。

獨誌の報ずる所に従へば斯くの如く發行準備は金でなく國民經濟行爲 (Leistung der Volkswirtschaft) をベースにしたものであるから之は所謂勞働通貨 (Arbeitswährung) であると思つて居る。

第六、爲替管理

通貨工作と爲替管理とは最も密接の關係あるが併合地に於ては獨逸爲替管理法を適用實施したが占領地は外國、敵國であり事情も違ふから獨逸爲替管理法を其儘適用しない。然し獨逸當局は占領地の官憲と協力して獨逸爲替管理法を見本として實施した。其内容は國に依り多少異なるが大體次の様な方策を取つた。

a、被占領地に於ける一般市民に對するもの。

金、金貨、外國支拂手段、外國有價證券等の申告義務、必要に應じ賣却義務及之等の自由處分禁止を命じたの

であるが此時に買上げるものは金又は自由爲替例へば米弗、瑞西フラン、瑞典クローネの様に容易に外貨になるものである。

b、獨逸軍隊に對するもの。

(1)獨逸軍隊が獨逸通貨を占領地に於て自由限度(十馬克)を超え輸出入(持出、持込)する事を禁止し、又占領地市民が獨逸通貨を受取る事も禁止した。之は獨逸通貨のインフレを防止する爲めである。

(2)獨逸軍隊が占領地に於て獨逸通貨を受取る事も禁止し、軍隊の通貨は軍票(信用金庫證券)又は被占領地通貨とした。

(3)從て獨逸軍隊は本國から占領地に入る時は國境のライヒスバンク出店か兩替所で軍票又は被占領地通貨に換へなければならぬし、又本國に歸る時も國境で軍票を獨逸通貨に換へなければならぬ。軍票と獨逸通貨の引替相場はパーで無手数料である。

(4)獨逸軍隊が占領地から本國向送金する事は制限がない、但し軍事郵便爲替に限る。之は軍隊が自己の給料の内から儉約した分を本國に回金する事を許したもので、儉約は戰時財政に望ましいと云ふ見地からである。反對に本國から占領地向の送金には制限があり、所に依つて違ふが次の通りである。

總督府、白耳義、佛蘭西(アルサス・ローレンスを除く)向……軍隊給料月額。但し百馬克以下。

諸威向……軍隊給料月額。但し五十馬克以下。

丁抹向……軍隊給料月額の三分の一

和蘭・ルクサンブル・アルサス・ローレンス向は爲替制限撤廢や獨逸爲替管理法適用の結果自由になつた譯だと思ふ。

尙、送金は軍事郵便爲替に限るもので軍事郵便や小包で送金する事は禁止して居る。

(5)軍隊が送金でなしに貨幣を持込む場合は自由限度(十馬克)を超え許される場合もあるが軍票か被占領地通貨に限るものである。

以上は占領地に於ける爲替管理の實狀であるが茲に特筆すべき事は和蘭・ルクサンブル・アルサス及ローレンスに對して特別の方策を取つた事である。

即ち和蘭に對しては獨逸との間に爲替制限を撤廢し自由ならしめ、馬克も通用せしめた事及ルクサンブル・アルサス・ローレンスに對しては馬克を法貨と定め且つ獨逸爲替管理法を適用し恰も保護領か併合地同様の措置を取つた事である。

第七、獨逸と占領地間の爲替清算協定

獨逸と占領地間の支拂關係は清算協定に依り決済する事にし、獨逸、占領地間のみならず占領地と獨逸以外の第三國間の支拂關係も伯林の獨逸清算金庫(Deutsche Verrechnungskasse)を經由、馬克で清算する所謂多角清算(multilaterale Clearing)を行ひ、例へば丁抹・白耳義間、諸威・和蘭間、佛蘭西・白耳義間の支拂關係も伯林經由馬克で清算する方策を取り、其間の爲替相場は馬克にリンクさせたのである。

此方針は今次戰爭の結果各國間の交易を金や爲替に依らず清算(clearing)で決済しやうと云ふ獨逸の新通貨政策

とも見るべきである。(本件に關しては拙稿「獨逸を中心とする清算協定の沿革、現状及將來——調査報告第二百二十三號」参照)

第八、 結

要するに占領地の通貨工作は最初軍票を使つたが後に被占領地の中央銀行紙幣を使つた。そして其紙幣を如何にして調達したかと云ふと佛蘭西の場合の如く占領費として被占領地政府に負擔させ、之を使用して居る模様では一種の賠償金前拂とも見るべきものであらう。

聞く所に依れば佛蘭西のみならず其他占領地に於ても同様占領費として獨逸側に提供し其内から獨逸軍隊は被占領地の中央銀行紙幣の供給を受けて居る模様であるが、其占領費たるや相當莫大なもので占領費のみならず獨逸が被占領地物資(特に農産物)の輸入額をカバーしても猶残る様な状態であるとの事である。

故に軍票の裏付物資の輸出と云ふ様な問題も起らない譯である。換言すれば獨逸は被占領地から軍隊費用を調達する外に物資も徴發して居る様な恰好である。そこで被占領地のインフレ問題が起るが之に對し獨逸は爲替管理、物價統制、税金及公債政策等を *subsidy* して居る様である。

以上は獨逸の併合地及占領地通貨工作の概説であるが以下各國、各個別に説明する。

二、 各併合地及占領地の通貨工作

奧 太 利

(イ) 併合後の通貨工作

獨逸は一九三八年三月十三日獨逸併合に關する法律を以て奧太利を併合し、次で三月十七日命令に依り奧太利の法貨を志の外に馬克を採用、其換算相場を一馬克〓一志五グロツシエンと定めたが四月二十三日に至り施行令を以て、

- a、 奧太利に獨逸貨幣法を適用し、
- b、 奧太利銀行紙幣は一九三八年四月二十五日限り流通を停止し、一九三八年五月十五日迄に三志〓二馬克の比率を以て奧太利銀行本支店又は奧太利に於けるライヒスバンク支店に於て引替へるべき事
- c、 奧太利銀行紙幣は一九三九年一月一日以後無効とした。

然し奧太利の硬貨は猶當分有効であつたが一九三八年五月二十五日命令を以て、

- a、 奧太利聯邦の百志及二十五志金貨并に補助貨たる五志及二志銀貨は一九三八年六月十六日以後流通を禁止し、
- b、 百志及二十五志金貨は一九三八年七月十五日迄、

- c、五志及二志銀貨は一九三八年十二月三十一日迄、
 d、三志 \parallel 二馬克の比率を以て塊太利内のライヒスバンク支店に於て引替へるべき、
 旨規定した。但し右三志 \parallel 二馬克の比率は國內關係丈けで對外關係は一志 \parallel 四六布と定めた。
 猶右金貨及銀貨以外に、一志硬貨、五十、十、五グロツシエン硬貨及千クローネ舊塊太利硬貨が補助貨として残つて居つたが之も一九三九年八月十一日命令を以て、
 a、一九三九年十月一日以後法貨たる資格を剝奪し、
 b、一九三九年十二月三十一日迄引替へるべき、
 旨規定したから塊太利の貨幣は全部馬克になつた譯だと思ふ。
 尙、一九三八年八月二日書替命令 (Umstellungsverordnung) を以て商人の財産目録、帳簿殘高及會社の資本金、株式、持分等は之を馬克に書替へるべき旨公布した。

(ロ) 爲替管理

獨逸政府は塊太利併合後間もなく一九三八年三月十九日命令を以て先づウインに爲替管理所を設け爲替管理を實施し、次で三月三十日施行令を以て塊太利通貨の獨逸輸入を禁止し、又四月二十九日命令を以て一九三三年六月九日の獨逸トランスファ・モラトリアム法を塊太利に適用して外債利子の國外送金を停止する等の暫定措置を取つたが翌一九三九年一月一日より獨逸爲替管理法を實施する事となり獨逸・塊太利間の爲替境界撤廢され塊太利は爲替法上の内國であり、又塊太利人は爲替法上の内國人となつた譯である。尙、獨逸爲替管理法を一々茲に擧げる事は

困難であるが要するに、

- a、金、外國支拂手段、外國有價證券等の申告義務及請求に依り賣却義務。
 b、爲替自由限度 (Freigrenze) 即ち一人に付一ヶ月十馬克以上の支拂手段、債權、有價證券、金及貴金屬等を外國又は外國人と取引する事を制限又は禁止し一切許可を要するものである。

ズデーテン・ドイツ地方

(イ) 併合後の通貨工作

ズデーテン・ドイツ地方は一九三八年九月二十九日の獨・伊・英・佛四國協定に依り一九三八年十月一日より獨逸に歸屬する事となつたが十月一日總統令を以て獨逸國は同地方を統治する旨を聲明し、茲にズデーテン・ドイツ地方は獨逸に歸屬する事となつた。

次で一九三八年十月十日命令を以てズデーテン・ドイツ地方にチェッコ・クローネの外に馬克を使用し、其換算率を一チェッコ・クローネ \parallel 一二布と規定した。

然るに當時の獨逸・チェッコ間の爲替相場は一チェッコ・クローネ \parallel 八布六〇であつたのに何故一二布としたか、其理由は當時獨逸の物價指數はチェッコに比べ約四〇%高いから換算相場も四〇%引上げ一二布としたと傳へて居る。右の如く先づ馬克とクローネを併用する命令を出したが一九三八年十月十五日第二命令を以て、

- a、チェッコ・クローネは一九三八年十月三十一日限りズデーテン・ドイツ地方の法貨たる事を停止し、十一月

十五日迄に一チェツコ・クローネ \parallel 一二布の比率で引替へるべき事。但し此相場はズデーテン・ドイツ地方を含む獨逸國に居住せざる者即ち外國人に適用しない。

- b、チェツコ・スロバキアの補助硬貨及十、二十、五十クローネの各紙幣は當分通貨と認める。
- c、ズデーテン・ドイツ地方にチェツコ貨幣の輸入を禁止する。
- d、一九三八年十月十日現在に於けるチェツコ・クローネ表示の内國人間債務關係(Schuldverhältnis)は凡て一チェツコ・クローネ \parallel 一二布の相場を以て馬克に書替へる事。内國人とは獨逸及ズデーテン・ドイツ地方に住所を有する者を云ふ。

- e、一九三八年十月十日現在に於けるズデーテン・ドイツ地方居住者對チェツコ居住者間の支拂(Zahlungen)は凡て換算所(Kursausgleichsstelle)を経由して一チェツコ・クローネ \parallel 一二布の割合で決済する事。但し債務關係(Schuldverhältnis)は例外とする。

換算所の設立に就ては經濟大臣之を定める。(之は後に命令を以てReichskreditgesellschaft A.G.と定めた)但しチェツコ居住者對チェツコ中央銀行債權、債務關係は右相場を以てライヒスバンク經由處理する事。

を規定し、次で一九三八年十一月二日右第二命令の施行令を公布して從來過渡期に許した前記補助貨及紙幣の流通を禁止して左の如く規定した。

- a、チェツコ・スロバキアの補助硬貨并に十、二十、五十クローネ紙幣は一九三八年十一月十五日限りズデーテン・ドイツ地方の支拂手段たる事を停止し、十一月三十日迄に一チェツコ・クローネ \parallel 一二布で馬克に引替へ

る事。

b、換算所に於て引替へる義務は次の場合にも適用する。

- (1) 一九三八年十月十日以後債權者又は債務者が住所を變更してズデーテン・ドイツ地方に居住せざる場合。
- (2) 一九三八年十月十日以後債務借替に依り、新債務發生の場合。
- (3) 一九三八年十月十日現在のチェツコ・クローネ債務を他の通貨に引替へた場合。

c、換算所に於て引替へるべき義務は百チェツコ・クローネ以下の債務又は自由限度十馬克に對しては適用しない。

d、換算所の任務はReichs-Kredit-Gesellschaft A.G.之に當り、之をズデーテン・ドイツ換算所(Sudeten-deutsche Kursausgleichsstelle)と名付ける。

以上前詰めれば次の様になる。

- 一九三八年十月十日、チェツコ・クローネと馬克を併用し、換算相場を一チェツコ・クローネ \parallel 一二布と定め、一九三八年十月三十一日、チェツコ・クローネの法貨たる事を停止。但しチェツコ補助硬貨及十、二十、五十チェツコ・クローネ紙幣は當分有効としたが、
- 一九三八年十一月十五日前記チェツコ補助硬貨及十、二十、五十チェツコ・クローネ紙幣も支拂手段たる事を停止した。

故に現在ズデーテン・ドイツ地方は馬克のみ法貨である。

(ロ) 馬克に書替令

一八

内國人間のチェッコ・クローネ債務關係を馬克に書替へるべき旨は一九三八年十月十五日の第二命令を以て既述の通り規定したが更に一九三九年一月十四日第三命令を以て、

a、ズデーテン・ドイツ地方居住者としてチェッコ・スロバキア居住者間の一九三八年十月十日現在の債務關係は之を一チェッコ・クローネ \parallel 一二布の比率で馬克に書替へる事。

b、右債務關係は換算所經由決濟する事。

を規定して曩の一九三八年十月十五日第二命令に於てズデーテン・ドイツ地方對チェッコ・スロバキア間の債務關係を除外した分も同様一チェッコ・クローネ \parallel 一二布を以て換算所に於て決濟すべき事を規定したものであるが更に政府は一九四〇年六月十四日命令中ズデーテン・ドイツ地方の債務關係に就て左の如く規定した。

a、債權者及債務者が内國人であるか又は債權者が内國人である場合、又内國の土地に對する抵當權なる場合は一九三八年十月十五日の命令に依り未だ書替へざるチェッコ・クローネ表示の債務關係にして一九三九年十一月二十三日現在のものは之を馬克に書替へる事を要し、

b、書替相場は一チェッコ・クローネ \parallel 一〇布、

c、書替の場合、金約款及特定貨幣の約條は無効、

d、内國人とは獨逸に住所又は營業所を有する者を云ふので外國企業の内國支店及外國人の内國企業も亦内國人である。但しボヘミア・モラビアは本規定の内國人にあらざる事。

然るに其後一九四〇年九月二十七日第四命令を以て、

a、前記第二命令規定のズデーテン・ドイツ地方居住者對チェッコ・スロバキア居住者間の支拂を換算所經由決濟する事は一九四〇年九月三十日限り之を廢止。

b、前記第三命令規定のズデーテン・ドイツ對チェッコ・スロバキア間の債務關係を一チェッコ・クローネ \parallel 一二布で馬克に書替へるべき條項を廢止。

c、ズデーテン・ドイツ地方居住者とボヘミア・モラビア保護領間のチェッコ・クローネ表示債務關係はズデーテン・ドイツ債權者及債務者は之を一チェッコ・クローネ \parallel 一〇布の換算率を以て決濟する事。

d、債務が千チェッコ・クローネ以下であるか、又は一九三八年十月十日以後ズデーテン・ドイツ地方に轉居した場合は書替義務なき事。

e、本令は一九四〇年十月十日より實施する旨規定した。

以上甚だ複雑して居るが要するにチェッコ・クローネ表示の債務關係は第一命令より第四命令迄公布して内國人間即ち獨逸及ズデーテン・ドイツ地方居住者間の債務關係は一チェッコ・クローネ \parallel 一二布、又ズデーテン・ドイツ居住者對ボヘミア・モラビア保護領及外國居住者間の債務關係は一チェッコ・クローネ \parallel 一〇布の換算率を以て馬克に書替へる事を規定したもので、此間チェッコは一九三九年三月十六日獨逸保護領となり、之をボヘミア・モラビア保護領 (Protectorat Böhmen und Mähren) と名付けたので第四命令に依り從來のズデーテン・ドイツ對

チエツコ・スロバキア關係の規定を廢止し、之をズデーテン・ドイツ對ボヘミア・モラビア保護領關係に改めたものである。

二〇

又、商人の財産目録、帳簿殘高及會社の資本金、株式、持分等に就ても矢張り奧太利の場合と同様に一九三九年二月九日書替命令 (Umstellungsverordnung) を以て馬克に書替へるべき事を規定した。

(ハ) 爲替管理

獨逸政府は一九三八年十月二十六日命令を以て獨逸爲替管理法を適用し、

a、ズデーテン・ドイツ地方に住所を有する者は左記有價物を一九三八年十一月三十日迄管轄内のライヒスバンク支店に申告する事を要す。

- (1) 外國支拂手段
 - (2) 外貨債權
 - (3) 外國人に對する内國通貨債權
 - (4) 外國人宛内國通貨手形及小切手
 - (5) 金及金貨
 - (6) 一切の内外有價證券
 - (7) 獨逸爲替管理法に依り許可を要すべき内國人に對する債權
- b、前記(1)乃至(5)記載の有價物は要求に依り之をライヒスバンクに賣却讓渡する事を要す。

c、一九三三年六月九日のトランスファ・モラトリアム法をズデーテン・ドイツ地方に適用す。
以上はズデーテン・ドイツ地方に於ける爲替管理の要點である。

ボヘミア・モラビア保護領

(イ) 保護領後の通貨工作

ボヘミア・モラビアは元のチエツコであるが一九三九年三月十六日の總統令に依り獨逸に歸屬する事になり、之をボヘミア・モラビア保護領 (Protektorat Böhmen und Mähren) と名付け、又此所に馬克の外にクローネを當分使用する事を規定した。

次で三月二十一日ボヘミア・モラビア保護領の貨幣比率に關する命令を以て一クローネ \equiv 一〇布と定め翌三月二十二日より實施した。

當時獨逸・チエツコ間の爲替相場は一クローネ \equiv 八布六〇であつたが之もズデーテン・ドイツの場合同様卸賣物價指數及生計費指數を考慮して決定したもので、即ちチエツコの卸賣物價指數は獨逸の物價指數に比べ約二五%低く、又生計費指數も約二〇%低いから換算相場も大體二〇%位引上げたものである。

即ち此所は奧太利やズデーテン・ドイツと違ひ獨逸に併合した所でないから馬克を唯一の法貨とせず、今猶依然としてクローネと馬克を法貨として居る。

尙、茲に附言し度い事はボヘミア・モラビアの貨幣は元々チエツコ・クローネであり、チエツコ・クローネはチ

エツコ・スロバキア時代即ち一九三六年十月九日チエツコ・スロバキア政府が一クローネの價値を三一ミリグラム
二一〇純金と定めたものであるが、ボヘミア・モラビア保護領となつてから一九四〇年十月一日法律を以て一クロ
ーネの價値を獨逸貨幣一〇布と規定した。従て以前の三一ミリグラム二一〇純金の法規は無効となつた譯である。

(ロ) 爲替管理

ボヘミア・モラビアは獨逸の保護領であるが獨逸爲替管理法を實施して居る譯ではなく、只獨逸の實狀に適した
様な爲替管理が行はれ、獨逸とボヘミア・モラビア保護領間に於ては爲替境界なく、兩地間の支拂に何等制限がな
い。又外國商品の輸入も許可制となつて居るが其許可は保護領駐在の獨逸官邊の同意を要する事になつて居る。

メーメル地方

(イ) 併合後の通貨工作

メーメル地方は一九三九年三月二十三日の法律に依り獨逸領土となり、同日命令を以てメーメル地方の法貨を馬
克と定め、其換算率を一リタス \parallel 四〇布と規定し、いきなり馬克のみを法貨とした點は今迄の遺口と異つて居る。

然しリタスは暫時流通を認められたが一九三九年四月二十一日施行令を以てメーメル地方の住民は總てリスア
ニ銀行券及硬貨を一リタス \parallel 四〇布の相場で一九三九年五月二十日迄引替へるべき旨規定した。

(ロ) 馬克に書替令

獨逸政府は一九三九年四月二十一日の施行令を以て併合當時即ち一九三九年三月二十二日現在に於ける内國人間

(獨逸及メーメル地方に住所又は營業所を有する者)のリスアニア貨幣表示の債務關係は一リタス \parallel 四〇布の換算
率を以て馬克に書替へるべき事、又一九四〇年六月十四日命令を以て書替へらるべき債務關係は金約款及特定貨幣
の約條を無効とする旨を規定した。

又商人の財産目録、帳簿殘高及會社の資本金、株式、持分等に就ても一九三九年五月五日書替命令 (Umstell-
ungsverordnung) に依り馬克に書替へるべき事を命じた。

(ハ) 爲替管理

併合後間もなく即ち一九三九年三月二十九日命令を以てメーメル地方に獨逸爲替管理法を適用し、

a、メーメル地方に住所を有する者は一九三九年五月十五日迄左記有價物を管轄のライヒスバンク支店に届出で
要求に應じ賣却、讓渡すべき事。

- (1) 外國支拂手段
- (2) 外貨債權
- (3) 外國人に對する内國通貨債權
- (4) 外國宛内國通貨債權
- (5) 金
- (6) 外國有價證券

b、メーメル地方に流通するリスアニア貨幣は一九三九年五月二十日後三日以内に管轄のライヒスバンク支店に

届出で要求に應じ賣却交付すべき事を規定した。

ダンチヒ市

(イ) 併合後の通貨工作

ダンチヒは一九三九年九月一日法律を以て獨逸に復歸する事となつたが、同日命令を公布してグルデンの外に馬克を使用する事を規定し、次で九月七日第一施行令を以て左の如く規定した。

- a、グルデンと馬克の比率を一グルデン \parallel 七〇布と定む。但し本比率は獨逸國及ダンチヒ市に居住せざる者に適用せず。
- b、ダンチヒ市に於ける物價及賃銀は凡てグルデン貨と馬克を以て表示すべし。
- c、グルデンは一九三九年九月三十日を以て其効力を停止す。
- d、ダンチヒ銀行紙幣及十、五グルデン硬貨は一九三九年十月十五日迄一グルデン \parallel 七〇布の相場を以て馬克に引替ふべし。
- e、一グルデン、 $\frac{1}{2}$ グルデン及十、五ダンチヒ布硬貨は當分一グルデン \parallel 七〇布の比率を以て流通す。
- f、二及一ダンチヒ布は二及一獨逸布と同價にて流通すべし。
- g、一九三九年九月一日現在に於けるグルデン貨表示の債務關係は凡て之を一グルデン \parallel 七〇布の比率を以て馬

克に書替ふべし。

h、ダンチヒ通貨をダンチヒ市に輸入する事を禁止す。

i、本令は一九三九年九月一日より有効。

次に一九三九年十月二十四日第二施行令を以て前記第一施行令に依り一グルデン \parallel 七〇布の相場で流通した十及五ダンチヒ布硬貨も十及五獨逸布と同價に流通すべき事を規定し。

更に一九四〇年六月七日命令を以て一グルデン及 $\frac{1}{2}$ グルデン硬貨を一九四〇年六月二十五日限り流通を停止し一九四〇年七月二十五日迄に引替へるべき事を規定し。

更に一九四〇年九月十七日命令に依り、從來第一施行令及第二施行令を以て獨逸硬貨として有効であつた十、五、二及一ダンチヒ布硬貨は、一九四〇年十一月一日より法貨としての効力を失ふ事になり、一九四〇年十一月三十日迄に引替へるべき旨を規定した。

故にダンチヒ市の通貨は要するに最初馬克とグルデンを併用し、暫くしてグルデン貨の法貨たる事を停止したが猶暫定的にグルデン硬貨の流通を認められたけれども今日ではグルデン硬貨の流通も停止し完全に馬克のみが法貨となつた譯である。

(ロ) 馬克に書替令

グルデン表示の債務關係に就ては先づ一九三九年九月七日第一施行令に依り一九三九年九月一日現在の債務關係は凡て之を一グルデン \parallel 七〇布の比率を以て馬克に書替へる事を規定したが、一九四〇年六月十四日命令を以て左

の如く規定した。

a、債権者及債務者が内國人であるか又は債権者が内國人である場合、又内國の土地に對する抵當權なる場合一九三九年九月一日現在のグルデン債務關係にして未だ書替へざるものは之を馬克に書替へる事。

b、書替相場は次の通り。

(1) 一ダンチヒ・グルデン＝五〇布

(2) ダンチヒ市の土地に對する抵當權なる場合又は債権者が内國人なる場合は、一ダンチヒ・グルデン＝七〇布

(3) 書替に際し金約款及特定貨幣の約條を無効とす。

c、内國人とは獨逸(ダンチヒ市を含む)に住所又は營業所を有するものにして外國企業の内國支店及外國人の内國企業も亦内國人なる事。但しボヘミア・モラビアは本令に云ふ内國にあらず。

d、書替へられざる債務關係のグルデン評價は次の通り。

(1) 債権者又は債務者が波蘭占領地域に住所を有する場合は、一グルデン＝五〇布

(2) 債権者又は債務者が其他の外國に住所を有する場合は、一グルデン＝四七布一〇

次に商人の財産目録、帳簿殘高及會社の資本金、株式、持分等に就ては一九四〇年一月十六日書替命令(Umstellungsverordnung)を以て馬克に書替へるべき事を規定した。

(ハ) 爲替管理

一九三九年九月七日第一施行令を以て先づダンチヒ通貨のダンチヒ輸入を禁止し、次で九月二十二日爲替管理實施に關する命令を以て左の如く規定した。

a、ダンチヒ市に獨逸爲替管理法を適用す。

b、ダンチヒ市に住所を有する者は左記有價物を一九三九年十月三十一日迄管轄内のライヒスバンク支店に届出で要求に應じ賣却、讓渡する事を要す。

(1) 外國支拂手段

(2) 外貨債權

(3) 外國人宛内國通貨債權

(4) 外國向内國通貨手形及小切手

(5) 金

(6) 外國有價證券

(7) 獨逸爲替管理法に依り許可を要する内國人宛債權

(8) 一九三八年九月三十日前取得した内國有價證券

c、本令は即日(一九三九年九月二十二日)實施。

又同日即ち一九三九年九月二十二日別に爲替所設立令を公布してダンチヒ市に爲替所(Devisenstelle Danzig)を設け、ダンチヒ銀行が之に代るべき旨を規定した。

波 蘭

二八

ヒットラー總統が一九三九年九月一日國防軍に對し、波蘭に實力行使を命じて以來波蘭は立所に散々にやられたが九月二十九日に至り獨・ソ協定に依り波蘭を獨・ソ間で分割してしまつた。

波蘭の通貨工作は非常に複雑して居り其間種々の経路を辿つたが先づ之を、

- A、東部地方 (Ostgebiet)
 - B、總督府 (Generalgouvernement)
 - C、信用金庫證券 (Reichskreditkassenschein)
 - D、新波蘭發行銀行 (Emissionbank in Polen)
 - E、波蘭ゾロテー貨の行方
- に分けて説明した方が解り易いと思ふ。

A 東部地方 (Ostgebiet)

(イ) 併合後の通貨工作

東部地方とは波蘭占領地區の内、東上部シレシアを含む舊獨逸領を一九三九年十月八日の總統令に依り獨逸に編入した地方を云ふのであり、其他の波蘭占領地區に對しては一九三九年十月十二日總統令を以て總督を任命し、之

を總督府と名付けたのである。

東部地方に於ては現在馬克のみが唯一の法貨であるが、之迄の過程を見ると次の通りである。

第一、最初占領當時即ち一九三九年九月七日先づ命令を以て東上部シレシアに馬克の外にゾロテーを使用する事を布告し、又其他の占領地に於ても同様一九三九年九月十一日ゾロテーと馬克を併用し、其換算率を何れも一ゾロテー＝五〇布と定めたが、其他占領地には別に信用金庫を設立して、一九三九年十月二日より同金庫の發行する信用金庫證券 (Reichskreditkassenschein) も通貨と認めた。信用金庫證券に就ては後述するが軍票とも稱すべき馬克紙幣である。

第二、然るに一九三九年十月八日、前に述べた通り總統令を以て東部地方を獨逸に編入してから、一九三九年十月二十二日の命令を以て一九三九年十一月二十七日限り信用金庫證券を東部地方に於て使用する事を中止し、一九三九年十一月一日以後其發行を停止、一九三九年十一月二十八日以後馬克のみを法貨と定めたものである。

第三、然し猶、過渡的にゾロテー硬貨の使用を許して居つたが之も一九四〇年九月十二日の命令を以て一九四〇年十一月一日より、一ゾロテー硬貨及五十、二十、十、五の各グルツシエン硬貨并に獨逸硬貨二及一布と同價に流通を認めた所の二及一グルツシエン硬貨を無効とし、

- a、一ゾロテー硬貨及五十、二十、十、五の各グルツシエン硬貨は、二ゾロテー＝一馬克の比率、
- b、二及一グルツシエン硬貨は、一ゾロテー＝一馬克の比率、

二九

で東部地方に於ける公の金庫又はライヒスバンク支店で一九四〇年十一月三十日迄引替へるべき旨を規定したから東部地方に於ては完全に馬克のみが法貨となつた譯である。

(ロ) 馬克に書替令

東部地方の債務關係に關しては一九四〇年六月十四日命令を以て左の如く規定した。

a、債権者及債務者が内國人なるか、又は債権者が内國人なる場合、又内國の土地に對する抵當權なる場合は一九三九年十一月二十三日現在のゾロテール表示債務關係は之を馬克に書替へる事。

b、換算率は一ゾロテール五〇布

c、書替に際し金約款及特定貨幣の約條を無効とす。

d、内國人とは獨逸(東部地方を含む)に住所又は營業所を有する者を云ひ、外國企業の内國支店及外國人の内國企業も亦内國人なる事。但しボヘミア・モラビア保護領は本令に云ふ内國にあらず。

又一九四一年二月三日書替命令(Umstellungsverordnung)を以て商人の財産目録、帳簿殘高及會社の資本金、株式、持分等を馬克に書替ふべき事を命じた。

(ハ) 爲替管理

東部地方に於ては一九三九年十一月十七日命令を以て十二月二十日より獨逸爲替管理法及トランスファ・モラトリウム法を適用する事としたが其以前一九三九年十月七日軍司令部命令に依り東上部シレシア及其他波蘭占領地に於て十月十四日より爲替管理を實施して居つた。其内容要點は次の如きものであつた。

a、外國支拂手段、金及金貨の中告義務及要求に應じ賣却、讓渡義務。

b、支拂手段、有價證券、貴金屬(金、銀、プラチナ)等の有價物及藝術品の持出禁止。

但し右規定は獨逸軍隊に適用されなかつた。

B 總督府 (Generalgouvernement)

(イ) 占領後の通貨工作

總督府とは前述した通り波蘭占領地區の内、東部編入地方を除いた波蘭占領地區を云ふので、最初之を "Generalgouvernement für die besetzten polnischen Gebiet" と呼んだが一九四〇年七月三十一日の告示を以て單に "Regierung der Generalgouvernement" と呼ぶ事になつた。

此地方に總督を任命したのは一九三九年十月十二日の總統令に依るものであるが實際總督府が出来たのは一九三九年十月二十六日である。

總督府となる以前即ち占領當時、「其他占領地方」と呼ばれた時代一九三九年九月十一日命令を以てゾロテールと馬克を併用し、一ゾロテール五〇布で通用したが、一九三九年九月二十三日信用金庫 (Reichskreditkasse) を設立し、同年十月二日より信用金庫證券 (Reichskreditkassenschein) を發行して此地方の通貨としたものであるが急に此信用金庫證券を止めて、一九三九年十二月十五日別に新波蘭發行銀行 (Emissionbank in Polen) を設立し、一九四〇年三月二十七日命令に依り、一九四〇年四月八日より其發行するゾロテール紙幣のみを法貨と定めた。従て信用

金庫は其機能を消失し、一九四〇年四月八日信用金庫は解散し、同時に信用金庫の業務は新波蘭發行銀行が引継ぐ事になった。而して舊ズロチ紙幣と新ズロチ紙幣との換算比率は之を一対一と定め、一九四〇年五月三十一日迄に引替へるべき事を命じた。但し舊波蘭の小額硬貨は猶有効の様である。

故に現在に於ても總督府の法貨は新發行銀行のズロチ紙幣である。新發行銀行紙幣に就ては後述D参照。
(ロ) 爲替管理

總督府の爲替管理は前に東部地方の爲替管理の項に述べた一九三九年十月七日の爲替管理令が有効であつて同年十月十四日より左の規定が實施された。即ち、

a、外國支拂手段、金及金貨の申告義務及要求に應じ賣却、讓渡義務。

b、支拂手段、有價證券、貴金屬(金、銀、プラチナ)、有價物、藝術品等の持出禁止。

又一九四〇年十月二十三日總督令を以て一九四〇年十二月十五日より輸入通關を禁止し、クラカウ爲替所の爲替證明なき限り通關を許可せざる事としたが其目的とする所は爲替状態に應じ輸入の品目及數量を決定するにあつた。

C 信用金庫證券 (Reichskreditkassenschein)

波蘭に於ては一九三九年九月初旬獨逸軍進撃と共に波蘭銀行は閉鎖され、其他信用機關も非占領地區に避難した爲め信用機能は停止してしまつた。

そこで一九三九年九月二十三日信用金庫設立に關する命令を以て先づ信用金庫本店をロツツに設け、其外十四ヶ所に支店を設けた。營業を開始したのは同年十月二日からである。

信用金庫の業務は、

- (1) 紙幣發行
- (2) 擔保貸付(期限六ヶ月以内)
- (3) 無利息預金
- (4) 占領地に於ける爲替管理

等である。

發行紙幣は之を信用金庫證券(Reichskreditkassenschein)と稱し、額面は二十馬克、五馬克、二馬克、一馬克及五十布の五種類であり、馬克と同價值である事を規定した。

發行準備は、

- (1) 獨逸政府への貸上金及企業家への貸付金
- (2) 政府手形
- (3) 信用金庫幹部の認むる有價證券及擔保商品

であり、發行限度は別に定めて居ない。只政府へ貸上限度を十億馬克と極めて居る。信用金庫の主たる目的は占領地に於ける政府の行政費其他經費を獨逸政府に貸付けるにあるので、之を十億馬克と極めたのは當時波蘭銀行の紙幣發

行高が約二十億ヅロテリであつたから之を二ヅロテリ一馬克の相場で換算すると十億馬克になるからであつた。以上信用金庫證券はダンチヒ及東上部シレシアを除く波蘭占領地區全土に通貨として使用せしめたのであるが獨逸國內では勿論通用しない。

然るに波蘭占領地區を前述した通り「東部地方」と「總督府」と判然區別してから兩者の通貨工作も區別してしまつた。即ち、

東部地方に於ては一九三九年十一月二十七日限りヅロテリの流通を停止し、馬克のみを法貨と定めたるに對し、總督府に於ては一九三九年十二月十五日新に波蘭發行銀行を設立し、一九四〇年四月八日より新波蘭發行銀行の發行するヅロテリ紙幣のみを法貨と定めてしまつた。

從て信用金庫の機能は自然消滅し、東部地方に於ては信用金庫はライヒスバンクに看板換をやり、一九三九年十一月一日以後信用金庫證券の發行を停止し、總督府に於ても信用金庫の業務は新波蘭發行銀行に引繼ぐ事となつて、一九四〇年四月八日より信用金庫の業務を停止してしまつた。

何故に信用金庫證券を急に廢止したかと云ふ事は判然しないが、思ふに信用金庫證券の使用は素々暫定的のものであり、東部地方は自國に編入したのだから何時迄も信用金庫證券を使用する必要なく、馬克を使用してよい譯であるし、又總督府は自國領土でないから馬克を何時迄も法貨とする譯に行まいし、矢張りヅロテリ貨を使用する事は、獨逸側の通貨政策から見ても、又波蘭住民の立場から見ても便利である許りでなく舊ヅロテリ紙幣は大分露領波蘭に流出したので爲替管理上等の密輸入を防止する必要もあり、且つ又舊波蘭銀行は戰爭の爲め崩壊し再建の

見込なくなつたと云ふ事もあり、あれや、これやで新に發行銀行を設立し、新にヅロテリ紙幣を發行する事にしたものゝ様である。

尙、波蘭に於て信用金庫證券の發行された高は約五千萬馬克と稱せられて居る。

D 新波蘭發行銀行

波蘭占領地に於て信用金庫證券の發行を停止し、總督府に於ては新發行銀行紙幣を使用するに至つた事は前述した通りであるが、新波蘭發行銀行は一九三九年十二月十五日總督令を以て設立したもので、之を“Bank Emisyjny w Polsce” (Emissionbank in Polen) と呼び總裁及取締役の任免權は總督にあり、本店をクラカウに置き支店も各所に設けた。而して實際仕事を開始したのは一九四〇年四月一日からである。

新發行銀行の業務は次の通りである。

- (1) 紙幣發行
- (2) 割引及擔保貸付
但し期限六ヶ月以内にして、政府への貸上金限度は信用金庫の場合の様に極まつて居ない。
- (3) 無利息預金
- (4) 保護預り
- (5) 總督府行政に關する金庫事務

次に發行準備は次の通りである。

- (1) 貸付及割引手形
- (2) ライヒスバンク及獨逸清算金庫への預金
- (3) 獨逸支拂手段
- (4) 税金

(5) 右の外、總督府治下に於ける土地負擔(Grundlast)評價額約三十億ヅロテーが發行準備に擧げられて居るが、之は舊ヅロテー紙幣約三十億ヅロテーの回收に當てられるものと云はれて居る。

即ち新發行銀行のヅロテー紙幣は金を背景にしたものでなく、國民經濟行爲(Leistung der Volkswirtschaft)に依つて出来るものであるから所謂勞働通貨(Arbeitswährung)であると云つて居る。發行紙幣は五百ヅロテー、百ヅロテー、五十ヅロテー、二十ヅロテー、十ヅロテー、五ヅロテー、二ヅロテー、一ヅロテーである。又硬貨に就ては一九四〇年四月二十三日の總督令に依り新發行銀行に對し鑄造の權能を賦與され、五十グルツシエン鐵貨、二十及十グルツシエン亞鉛貨を鑄造した。

尙、新發行銀行設立の経緯及發行紙幣の狀況等に就ては前述した通りである。

E 舊波蘭ヅロテー貨の行方

舊波蘭ヅロテー貨は、現在獨逸に編入した東部地方に於ても又占領地の總督府治下に於ても既に法貨ではなく、東

部地方では馬克、總督府では新波蘭發行銀行のヅロテー紙幣が唯一の法貨となつたのである。然らば舊ヅロテー貨はどうなつたか、其過程を見ると、

- 第一、先づ占領當時の一九三九年九月七日命令を以て東上部シレシアにヅロテーと馬克を併用し、次に其他の占領地區に於ても同年九月十一日ヅロテーと馬克を併用し、其換算率を何れも一ヅロテー \parallel 五〇布と定めたが、
- 第二、其後一九三九年十月八日東上部シレシアに於て先づヅロテーの法貨たる事を停止し、一九三九年十月十五日迄に馬克に引替へるべき事を規定し、其換算相場を最初の比率同様一ヅロテー \parallel 五〇布と定めた。
- 第三、然し猶、暫定的に一ヅロテー及五十、二十、十、五、二、一グルツシエンの各硬貨の流通を認めた。
- 第四、次に東部地方に於て一九三九年十一月二十二日命令を以て一九三九年十一月二十七日限り、ヅロテーの法貨たる事を停止し、馬克を唯一の法貨とし、一九三九年十二月九日迄に二ヅロテー \parallel 一馬克で馬克に引替へるべき事とした。但し一ヅロテー及五十、二十、十、五グルツシエン硬貨は二ヅロテー \parallel 一馬克で、二及一グルツシエン硬貨は獨貨の二及一布と同價で流通を許した。

- 第五、然るに一九四〇年九月十二日命令を以て従來東部地方に暫定的に流通を許した一ヅロテー及五十、二十、十、五、二、一グルツシエンの各硬貨は凡て一九四〇年十一月一日以後無効とし、同年十一月三十日迄に一ヅロテー及五十、二十、十、五グルツシエン硬貨は二ヅロテー \parallel 一馬克で、二及一グルツシエン硬貨は一ヅロテー \parallel 一馬克の相場に引替へるべき事とした。依て東部地方に於てヅロテー貨は完全に廢止となつた譯である。
- 第六、又總督府に於ても一九四〇年四月八日より新ヅロテー紙幣のみを法貨と定め舊ヅロテー紙幣は一九四〇年

五月三十一日迄に回収してしまつたから、舊波蘭の露領を除いた波蘭に於てはゾロチー貨は現在に於て法貨たる効力を失つてしまつた譯である。但し舊波蘭の小額硬貨は總督府に於て猶有効の様である。

オイペン (Eupen)、マルメデー (Malmedy)、及モレスネ (Moresnet)

(イ) 併合後の通貨工作

オイペン、マルメデー及モレスネは元獨逸領であつたがベルサイユ條約に依り白耳義領となつたものである。

然るに一九四〇年五月十日獨逸軍は白耳義に侵入して重要都市を次々に占領し、五月十八日總統令を以て右三地方を獨逸に併合し、次で六月六日命令を以て次の如く規定した。

- a、オイペン、マルメデー及モレスネの法貨はベルガの外に馬克を使用し、其換算率を一ベルガ \parallel 五〇布と定む。
- b、ベルガは一九四〇年六月三十日限り法貨たる事を停止し、同期日迄前記換算率を以て交換すべき事。
- c、白耳義通貨をオイペン、マルメデー及モレスネに輸入を禁止す。
- d、故意に白耳義通貨をオイペン、マルメデー及モレスネに輸入したる者は禁個と罰金に處し、罰金は犯罪行為金額の十倍とし、過失に依るものは罰金のみ課す。但し何れの場合に於ても違反して輸入したる白耳義通貨は之を沒收す。
- e、ベルガ表示債務關係は凡て一ベルガ \parallel 五〇布の比率を以て馬克に書替へるべき事。書替に際し金約款又は特別貨幣の約條は之を無効とす。

(ロ) 馬克に書替令

債務關係に就ては前記の如く一九四〇年六月六日の命令を以てベルガ表示債務關係は凡て一ベルガ \parallel 五〇布の比率で馬克に書替へる事を命じ、又商人の財産目録、帳簿及會社の資本金、株式、持分等の馬克書替に關しては一九四〇年十月八日書替命令 (Umstellungsverordnung) を以て規定した。

(ハ) 爲替管理

獨逸政府は一九四〇年六月七日命令を以てオイペン、マルメデー及モレスネに獨逸爲替管理法及トランイフア・モラトリアム法を適用する旨公布した。即ち

a、オイペン、マルメデー及モレスネは爲替法上の内國なる事、及此地方に居住する者は爲替法上の内國人たる事。

b、此地方に居住する者は一九四〇年五月十日 (獨逸軍侵入の日) 現在、及本令實施當日迄所有した左記有價物をオイペン所在のライヒスバンク支店に届出で請求に依り賣却する事を要す。

- (1) 外國支拂手段
- (2) 外貨債權 (但し内國人に對する債權を除く)
- (3) 外國宛内國通貨手形及小切手
- (4) 外國人に對する内國通貨債權
- (5) 金

(6) 外國有價證券

(7) 一九四〇年五月十日以前より所有するオイペン、マルメデー及モレスネ以外の獨逸領に在る信用機關又は郵便爲替局に預けて居る預金

(8) 一九四〇年五月十日以前に取得した内國有價證券

c、オイペン、マルメデー及モレスネに於ける白耳義通貨は一九四〇年六月三十日迄之を外國支拂手段と看做さず。但し一九四〇年七月一日以後三日以内に之を届出で請求に依り賣却する事を要す。

d、本令實施と共に從來此地方に有効なる爲替管理規定は之を無効とす。

e、本令は一九四〇年六月一日より實施す。

以上は爲替管理規定内容の要旨である。

丁抹、諾威、和蘭、白耳義、ルクサンブール、佛蘭西の

信用金庫證券(軍票)。

A 信用金庫の設立、目的及組織

一九四〇年四月獨逸軍は突如丁抹、諾威を占領し、翌五月和蘭、白耳義を席卷し、更に佛蘭西に進撃し、六月佛蘭西の降伏を見るに至つた。

之より先五月三日信用金庫令 (Verordnung über Reichskreditkassen) を公布して伯林に信用金庫 (Reichskreditkasse) を設立し、先づ丁抹及諾威に於ける獨逸軍隊用の通貨を發行する旨を規定したが其後間もなく和蘭、白耳義、ルクサンブールに侵入したので五月十五日右信用金庫令變更に關する命令 (Verordnung zur Änderung der Verordnung über Reichskreditkassen) を出した。其内容要旨は次の通りである。

a、丁抹、諾威、和蘭、白耳義、ルクサンブール及佛蘭西に於ける獨逸軍隊及行政官廳に對する通貨供給并に支拂交易及經濟確立の爲め信用金庫證券 (Reichskreditkassenschein) 及信用金庫硬貨 (Reichskreditkassenmünzen) を發行する。

b、信用金庫本店は之を伯林に置き信用金庫證券及信用金庫硬貨を發行する。

c、信用金庫の業務は理事 (Vorstand) 之を掌り、理事は管理委員會 (Verwaltungsrat) より任命する。管理委員會はライヒスバンク總裁より指定する者の外に大藏大臣、經濟大臣及軍司令官の各代理一名より成り、委員長にはライヒスバンク總裁より指定されたる者の内から成る。

d、信用金庫は獨逸政府に三十億馬克(五月三日の命令では五億馬克と定めた) 迄貸與する。

e、信用金庫の發行する證券(紙幣) 額面は五十馬克、二十馬克、五馬克、二馬克、一馬克及五十布の六種とし、硬貨は十布及五布の二種とする。

f、信用金庫證券は他日回収し、回収したる信用金庫證券は一定期間後無効とする。

g、大藏大臣及經濟大臣は軍司令官の同意を得て必要な命令を公布する事を得る。

h、本令は一九四〇年五月十日より實施する。

B 信用金庫の業務及發行準備

獨逸政府は更に同日即ち一九四〇年五月十五日、命令を以て前記占領地に於ける信用金庫の業務及發行準備に關し、次の如く規定した。

a、信用金庫は丁抹、諾威、和蘭、白耳義、ルクサンブル及佛蘭西の占領地に於ける通貨及信用取引の調整を計る權能を有す。

b、信用金庫の業務は左の通り。

- (1) 手形及小切手賣買。但し原則として三署名あるもの、期限は買入の日より六ヶ月以内に期日到來するもの。
 - (2) 擔保貸付。但し期限は六ヶ月以内。
 - (3) 無利息預金及振替業務 (Überweisungsverkehr)。
 - (4) 委託業務。
 - (5) 有價證券の保護預り。
- c、信用金庫の發行準備左の通り。
- (1) 買入手形及小切手。

(2) 擔保貸付金。

(3) 獨逸支拂手段、外國支拂手段、ライヒスバンクへの預金、獨逸清算勘定預金 (Verrechnungsguthaben)、大藏省手形 (Reichsschatzwechsel)。

(4) 獨逸政府への貸上金。

d、本令は一九四〇年五月十日より實施す。

以上信用金庫令の内容であるが本命令に於て別に資本金の定がない。

C 信用金庫證券の流通狀況

信用金庫證券は軍票とも稱すべきもので獨逸軍が侵入と共に軍隊の支拂用として使用したものであるが被占領地の市民も自國貨幣と併せ使用し、其換算率は軍當局の命令に依り之を決定し、例へば丁抹に於ては一丁抹クローネ || 五〇布、諾威に於ては一諾威クローネ || 六〇布、又佛蘭西に於ても一フラン || 五布と云ふ様に相場を法定したのである。

素より信用金庫證券は占領地區に於てのみ流通するもので、若し獨逸に入つたならば獨逸通貨に引替へられ結局伯林の信用金庫本店に戻つて來る。

信用金庫證券を最も使用したのは白耳義、佛蘭西であつた。何故かと云ふと此地方は獨逸軍の爲めに最も蹂躪され、從て信用機關は非占領地區や國外に移つたり、又一般市民も紙幣を持ち逃げしたからである。之に反し丁抹、

諾威は獨逸軍侵入の損害少く、信用機關が無傷に残つて居つたから信用金庫證券も餘り使はずに済み、又和蘭に於ても和蘭銀行が獨逸軍隊に協力した爲め此所でも白耳義、佛蘭西の様に使用されなかつた模様である。従て丁抹、諾威には信用金庫の設立を見ず、白耳義、佛蘭西、和蘭に於ては各所に信用金庫支店を設けた。然し治安が回復すると共に信用金庫も段々閉鎖し、信用金庫證券も段々回収され現在では殆ど發行を停止し、獨逸軍隊は主として被占領地通貨を使用して居る状態である。

丁 抹

(イ) 占領後の通貨工作

丁抹に於ては獨逸軍は一九四〇年四月九日其首都コペンハーゲンを占領し、最初信用金庫證券を使つたが、此地方は前述した通り信用機關が無傷に残つて居つたから別に信用金庫を設ける必要もなかつたし、又信用金庫證券も餘り使はなかつた様である。信用金庫證券と丁抹クローネとの相場は之を一丁抹クローネ〓五〇布と定めたが其後一九四〇年八月二十七日以後信用金庫證券の發行を停止し、軍隊は専ら丁抹クローネを使用する事となり、獨逸軍隊は之等クローネを丁抹中央銀行より供給を受けるのであるが、之に對し丁抹中央銀行は獨逸信用金庫に貸 (Guthabenschrift) とするのである。そして其貸記した Credit balance (Guthaben) は他日調整する事になつて居る。

尙、之れ以前の遺口を見ると獨逸軍隊の支拂つた信用金庫證券は市場を通じて丁抹中央銀行に入り、中央銀行は之を獨・丁間の清算協定を経由して清算して居つた様である。

(ロ) 爲替管理

丁抹の爲替管理に就ては委しい事は判らないが一九四〇年六月二十五日丁抹商務省告示を以て通貨及有價證券の輸出入制限を爲し、又七月一日爲替中央局命令を以て外國商品の輸入に對し爲替許可を要する事になつた模様である。

諾 威

(イ) 占領後の通貨工作

諾威は丁抹同様一九四〇年四月九日獨逸軍の爲めにオスロを占領された。然し此地方も丁抹同様金融機關が無傷に残つて居つたし、又諾威中央銀行は獨逸軍に協力する事を誓つたので此所には信用金庫支店も設けられなかつたし、又信用金庫證券の使用も僅かで、一九四〇年六月十二日には其發行を停止し、現在では軍隊は諾威クローネを使用して居る。信用金庫證券と諾威クローネの換算率は最初一諾威クローネ〓六〇布と定めたが一九四〇年九月三日から獨・諾間の清算相場 (Verrechnungskurs) 同様一諾威クローネ〓五七布に改めた。

而して獨逸軍隊の使用する諾威クローネは諾威中央銀行より供給し、之に對し諾威中央銀行は信用金庫に貸とする事は丁抹同様である。

因に諾威の受けた戦時損害例へば鐵道、建物等公私併せて五億クローネと稱せられて居る。

(ロ) 爲替管理

一九四〇年七月十七日占領地行政官命令を以て爲替管理を獨逸爲替管理法に見習ひ施行したが、其要旨は次の通りである。

- a、外國有價證券、外國支拂手段、外貨債權の賣買の權能を諾威銀行に賦與する。
- b、諾威銀行は前記有價物の賣買を他の銀行に委任する事を得る。
- c、諾威及外國支拂手段并有價證券の輸出入には諾威銀行の許可を要する。
- d、諾威にある外國支拂手段は一九四〇年七月三十一日迄諾威銀行に申告する事を要し、使用し得べき外國支拂手段は之を諾威銀行に賣却する事を要する。
- e、旅行者は九十九クロイネ迄許可なしに携帯する事を得る。
- f、本規定に違反したる者は最高十萬クロイネの罰金又は六ヶ月以内の禁錮に處す。
- g、本令は即日實施。

和 蘭

(イ) 占領後の通貨工作

獨逸軍は一九四〇年五月十日和蘭に侵入し、早くも五月十五日和蘭を降伏せしむるに至つた。獨逸軍侵入と同時に信用金庫證券はギルダー同様法貨である事を聲明し、換算率を一ギルダー＝一馬克五〇布と定めた。

信用金庫支店は最初八ヶ所に設けられたが和蘭の信用及通貨が戦争に依つて大した損害を受けなかつたし、又和

蘭銀行及市中銀行は獨逸軍に協力したので信用金庫の必要もなくなり、二ヶ月後には殆ど閉鎖され只アムステルダムに残つて居る丈けである。従て信用金庫證券も短期間に殆どギルダーに引替へられ、七月以後獨逸軍隊は信用金庫證券の代りにギルダーを使用した。其ギルダーは丁抹、諾威の場合と同様和蘭中央銀行から供給するもので、和蘭中央銀行は之に對し信用金庫證券を受取るか、又は獨逸清算金庫 (Deutsche Verrechnungskasse) に貸とするのである。

信用金庫證券とギルダーとの換算相場は最初一ギルダー＝一馬克五〇布と定めたが一九四〇年七月十六日以後一ギルダー＝一馬克三三布に改めた。然し實際上信用金庫證券は殆ど回収されたから無意味のものであつた。尙、獨逸、和蘭間の清算相場は一九四一年四月一日より一〇〇ギルダー＝一三二馬克七〇布に取極め、此相場を紙幣及硬貨にも使用する事となつた。

(ロ) 爲 替 管 理

獨逸軍侵入の日即ち一九四〇年五月十日和蘭政府は不取敢自國通貨擁護の爲め爲替管理令を公布したが次で六月二十四日曩の爲替管理令に代へ新に獨逸爲替管理法を見本として爲替管理令を公布した。其要旨は次の通りである。

- a、金、非金屬(銀、プラチナ)、外國支拂手段(貨幣、手形、小切手)は之を和蘭銀行に直接又は爲替銀行經由二週間以内に届出づる事を要す。

但し五ギルダーを超えざるものは此限りにあらず。

b、許可を得るにあらざれば金、非金屬及外國支拂手段を處分する事を得ず。

但し、金、非金屬及外國支拂手段を和蘭銀行に賣却する場合は許可を要せず。和蘭銀行は大藏省と協議の上買入値段を決定告示す。

c、和蘭銀行は爲替賣買の權能を有し、和蘭銀行以外は爲替買入を爲す事を得ず。

d、爲替局の許可を得るにあらざれば金及爲替を輸出する事を得ず。

一方獨逸政府は其後和蘭占領地との爲替規定を緩和し、一九四〇年十一月一日より、

a、旅行者は一ヶ月一千馬克又は七百五十ギルダー迄持込む事を許し、

b、占領地に對する支拂は月、五千馬克迄は保險金を除き之を許し、又和蘭商品の輸入代金は無制限に支拂ふ事を許した。但し特殊商品例へば食料品輸入に對しては許可を要する事とした。

c、又獨逸、和蘭清算勘定の預金は和蘭が五千馬克迄は自由に使用し得る事となつた。

然るに其後一九四一年三月三十一日の獨逸爲替管理所指令 (R. E. 29/41 D. St.) を以て一九四一年四月一日より獨逸と和蘭占領地間の爲替境界 (Devisengrenze) を撤廢し、兩地間の取引・支拂を自由とし特殊の例外、例へば十萬盾以上の投資の場合を除き其間何等の許可を要せざる事とし、且つ獨・蘭清算協定も廢止して、清算勘定は一九四一年三月三十一日を以て閉鎖する事となつた。但し和蘭占領地と第三國間の清算は從來通り存続するものである。

従て馬克を和蘭に持込む事も自由となり和蘭に於ては馬克も通用する譯だが、同日即ち一九四一年四月一日より

馬克とギルダの換算率はライヒスバンクと和蘭銀行との協定に依り凡て一〇〇ギルダ＝一三三馬克七〇布と決定した。但し馬克は和蘭に於て法貨ではない。

尙、獨逸政府は一九四一年三月二十九日附爲替管理法第六施行令及爲替管理所指令 (R. E. 30/41 D. St.) を以て一九四一年四月一日より盾を獨逸通貨同様に取扱ひ和蘭以外の外國より輸入する事を禁止した。

白 耳 義

(イ) 新發行銀行及信用金庫證券

白耳義も和蘭同様一九四〇年五月十日獨逸軍に侵入され、遂に一九四〇年五月二十八日降伏するに至つたが白耳義に於ては獨逸軍の進撃を受けるや中央銀行は白耳義政府と一所に外國に移り、郵便爲替局も其仕事を停止したし、又市民は貨幣を持逃したから信用制度も支拂制度も全く停止してしまひ、又戰禍も和蘭以上に大きかつた。そこで經濟復興の爲め此地方には新に發行銀行設立の必要に迫られたので一九四〇年六月二十七日軍司令官の命令を以て新に發行銀行を設立する事となつた。

新發行銀行の内容は次の通りである。

名稱。ブラッセル發行銀行 (Emissionbank in Brussel)

資本金。三千萬ベルガ (内二〇%拂込済)

株主。白耳義四大銀行即ち (1) Banque de la Société Générale de Belgique, (2) Banque de Bruxelles,

(3) Société Belge de Banque, (4) Kreditbank voor Handel en Nijverheid. の外五大産業財閥。

業務。(1)紙幣發行。(2)政府、州及公共團體に對する信用許與。(3)手形、小切手割引。但し期間六ヶ月以内。(4)貸付。但し期限六ヶ月以内

發行準備。(1)信用金庫證券。(2)獨逸支拂手段其他外國爲替。(3)ライヒスバンク及獨逸信用金庫に對する預金。白耳義中央銀行に對する預金及債權。

新發行銀行が業務を開始したのは一九四〇年七月十三日からであるが實際に於ては紙幣を發行しなかつた。何となれば曩に國外に移つた白耳義中央銀行は七月初ブラツセルに戻つて來たし、又中央銀行の重役も七月中旬中央銀行紙幣や印刷機を持つて歸つて來たから舊中央銀行の紙幣を使用する事となり、之が又心理的にも有利であつたらである。

故に白耳義には二つの中央銀行が出來た様な恰好であるが之は過渡期に於ける暫定措置と見るべきであらう。然し白耳義中央銀行總裁が新發行銀行を管掌し、其監督も職員も實際上同一のもので言はゞ姉妹銀行の様なものであり、只新發行銀行は一九四〇年八月以來請算機關として職務を果す事となり、又一九四〇年十月十一日より獨逸軍隊に白耳義通貨を供給する事となつた。而して其通貨調達は白耳義政府より受けた信用に基くものである。

從て信用金庫證券も同日即ち一九四〇年十月十一日以後發行を停止し、信用金庫發行の一〇布及五布の硬貨は一九四一年四月二十八日の命令を以て法貨たる資格を剝奪し五月末迄に回収する事となつた。信用金庫證券と白耳義フランとの換算率は最初一白耳義フラン＝一〇布と定めたが一九四〇年七月十六日より一白耳義フラン＝八布と定

めた。但し此相場は外國に對しては適用されない。

尙、獨逸軍司令官は白耳義中央銀行に對し監督官 (Kommissar) として伯林のコムス銀行 (Comes & Co.) 頭取 Dr. Hans von Becker を任命したが本監督官は新發行銀行にも參與し、白耳義占領地の通貨、金融及保險等の監督の任に當るものである。

(ロ) 爲替管理

白耳義に於ても獨逸爲替管理法に見習ひ、爲替管理を實施し、特に金、外國通貨、外國有價證券、外貨債權、卑金屬等の申告義務を規定し、必要に應じ買入れる場合は新發行銀行がライヒスバンクの認むる範圍に於て買取るのである。

外國紙幣の賣買に就ては左の五銀行に取扱を許した。勿論許可ある者に對してのみ賣買するものである。

(1) Kreditbank voor Handel en Nijverheid, (2) Société Belge de Banque, (3) Banque d'Anvers, (4) Banque de Bruxelles, (5) Banque de la Société Général Belgique.

爲替管理の施行は獨逸側にあるが爲替管理の取扱事務に就ては白耳義に關係深いものに限り白耳義側に委した。

尙、一九四〇年八月二十八日よりルクサンブルに獨逸爲替管理法を適用したので、ルクサンブルは白耳義より見て外國となり、又ルクサンブルの住民は白耳義から見て外國人となつた。從て白耳義からルクサンブルに商用旅行する者は一ヶ月三千白耳義フランに制限し、それ以上は特別許可を要し、國境取引は一日十白耳義フラン、一ヶ月百白耳義フランに制限し、其れ以上は許可を要する事にし、又信用金庫證券を白耳義からルクサンブルに

輸出する事も禁止し、又白耳義・ルクサンブル間の支拂は原則として獨・白清算協定を経由する事になつた。

ルクサンブル

(イ) 占領後の通貨工作

ルクサンブルの通貨工作は多少複雑して居るから之を次の四段に分けて説明しよう。

第一、獨逸軍は一九四〇年五月十一日ルクサンブル全土を占領し、五月十日より信用金庫證券を使用し、其換算率を白耳義フラン同様、一ルクサンブル・フラン \parallel 一〇布と定めた。開戦前の白耳義フランとルクサンブル・フランの相場は、一ルクサンブル・フラン \parallel 一白耳義フラン二五であつたが白耳義フランもルクサンブル・フランも同價値に見た譯である。

第二、然し一九四〇年六月十四日より、一ルクサンブル・フラン \parallel 一二布半に改め、

第三、更に同年七月二十二日、ルクサンブルの法貨をルクサンブル・フラン及信用金庫貨幣(紙幣及硬貨)と爲し、其換算率を最初定めた、一ルクサンブル・フラン \parallel 一〇布に再び戻したのである。之は白耳義フランの相場を一九四〇年七月十六日より、一白耳義フラン \parallel 八布と改めたから、一ルクサンブル・フラン \parallel 一白耳義フラン二五の相場を基準として一〇布に改めたものであらう。

第四、然るに一九四〇年八月七日、ルクサンブルに獨逸の民政長官を任命し、八月二十六日より、ルクサンブルを獨逸貨幣領域に編入し馬克を法貨と定め、漸次ルクサンブル及白耳義フラン紙幣を回収し、一九四一

年二月五日命令に依り、ルクサンブル・フラン、白耳義フラン及信用金庫證券を無効とし、一九四一年三月一日迄にルクサンブルに在る公の金庫又はライヒスバンク支店に於て、

- a、一ルクサンブル・フラン \parallel 一〇布
- b、一白耳義フラン \parallel 八布

の相場で馬克に引替へしめ其以後フラン貨を全然無効とし、同時に信用金庫證券も市場から回収したのである。故に現在ルクサンブルの法貨は馬克のみとなつた譯である。

(ロ) 馬克に書替令

一九四一年二月五日の命令を以てルクサンブル及白耳義フランを無効とし、同時にルクサンブル及白耳義フラン表示の債務關係は内國人に關す限り之を馬克に書替へるべき事を規定した。内國人とは獨逸、保護領、アルサス及ローレンスに住所又は營業所を有する者を云ひ、外國人たると外國商社たるとを問はず内國に支店又は營業する者を含むものであり、債務書替に際し金條項を無効とし、又商賣上の價格は凡て馬克を以て表示する事を規定した。

(ハ) 爲替管理

一九四〇年八月二十七日民政長官の命令を以てルクサンブルに獨逸爲替管理法を翌八月二十八日より適用し、ルクサンブルに居住する者は、

- a、米弗紙幣、瑞西フラン紙幣、瑞典クロネ紙幣、佛蘭西フラン紙幣、金及金貨をルクサンブル銀行に申告

し、請求に依り賣却する事を要し、

b、外貨債権其他凡ての外國支拂手段、外國有價證券、獨逸信用機關又は郵便爲替局に對する預金（一九四〇年八月二十日前に預けたるもの）及ルクサンブルに於て發行した有價證券（一九四〇年八月二十日前に取得したるもの）は之を信用金庫に届出で、請求に依り賣却する事を要する、

旨規定した。

以上ルクサンブルの通貨工作を見ると領土の併合はして居ないが馬克を法貨としたり、獨逸爲替管理法を適用した點から見て併合同様の措置を取つて居る。

佛 蘭 西

(イ) 占領後の通貨工作

獨逸軍は一九四〇年五月十七日マヂノ線を突破し、同年六月十四日巴里に入城、十七日佛蘭西の降伏となり、次で二十二日獨佛停戰協定の調印を見るに至つた。

佛蘭西に於ては戰爭の爲め佛蘭西銀行其他信用機關及行政機關は六月十日、からつぽにして逃げ去り、要路の人達や役人達も轉々と逃げ廻り、クレモント・ヘラン(Clemont-Ferand)迄逃げて其所に臨時根據を構へたが、逃げる時には紙幣を持ち運んだから通貨は著しく不足したのでそこで各所に信用金庫支店を設け、信用金庫證券で其不足を補つた譯であるが、信用金庫證券とフランの相場は一九四〇年五月十七日命令を以て、一フラン＝五布と定めた。

然し一九四〇年六月二十二日停戰協定が出来たので七月中頃から市中銀行家や役人達も戻つて来て七月末には大體平常に復し、八月中頃からは通貨取引も支障なく行はれる様になつて、佛蘭西銀行其他信用機關は信用金庫證券の回收に取掛り、今日では殆ど其姿を消したと云はれ、信用金庫硬貨の一〇布及五布は一九四一年四月二十八日の命令に依り無効となり五月末迄回收される事となり、獨逸軍隊の支拂も、軍屬の買入も佛蘭西紙幣で行はれて居るとの事である。

現在では佛蘭西銀行はクレモント・ヘランに本店を移し、巴里に營業所があるが之は獨逸側の監督の下にあるもので、本店から紙幣の供給を受けて居る。獨逸軍の佛蘭西占領費用は佛蘭西政府から出す事になつて居るが佛蘭西銀行は之を政府に貸付けるので其費用は一日四億フラン（約二千萬馬克）と云はれ即ち一ヶ月百二十億フランとなる譯であるが一九四〇年八月二十五日此費用を佛蘭西との協定に依り五百億フランと定めたが更に一九四〇年八月二十九日之を六百五十億フランとなり、更に一九四〇年十二月十七日には七百五十億フラン（約六ヶ月分）に上つたが一九四一年五月七日新協定に依り一日四億フランが三億フラン（千五百萬馬克）に減額された。尙此費用は前拂の形式で支拂ふものである。

尙、佛蘭西政府は停戰協定直後從來の磅リンクを止め、米弗リンクに改め一弗＝四三フラン八〇と定めた。

要するに佛蘭西に於ては獨逸軍隊は最初信用金庫證券を使つたが後に占領費として佛蘭西政府から取る佛貨を使用して居るのである。

(ロ) 爲 替 管 理

佛蘭西政府は開戦直後爲替管理を実施し、佛蘭西大蔵省が其局に當つて居つたが、一九四〇年十二月一日より大蔵省の手を離れ新に自治團體として爲替局 (Office des changes) を設け、從來爲替清算事務を取つて居つた清算局 (Office de compensation) を合併し、爲替管理のみならず、外國貿易にも關與する事となつた。

一方獨逸軍司令官は一九四〇年八月十四日占領地に於ける爲替管理に關し、命令を公布し左の如く規定した。

- a、獨逸占領地域に居住する外國人所有の債務證書 (Schuldverschreibungen) の處分を禁止す。
- b、佛蘭西人が外國人に對して有する預金 (Guthaben) の處分を禁止す。
- c、佛蘭西人が外國人に關係ある市民と共同に持つ預金 (Guthaben) の處分を禁止す。
- d、佛貨以外の貨幣使用を禁止す。但し信用金庫證券及特定の獨逸硬貨(一、二、五及一〇布)は此限りにあらず。
- e、外國有價證券の所有を禁止す。
- f、以上の規定は獨逸軍隊及佛蘭西に居住する獨逸人に適用せず。

尙、獨逸軍司令部、信用金庫及佛蘭西爲替管理當局は占領地域に於ける住民に對し爲替報告を請求する權能を有し、佛蘭西爲替管理當局は前記命令に必要な措置を取る事が出来る。

アルサス及ローレンス

(イ) 占領後の通貨工作

アルサス及ローレンスは最初佛蘭西と同様であつたが獨逸政府は一九四〇年八月七日獨逸民政長官を任命し、同

年八月九日民政長官の命令を以て獨逸貨幣を法貨と定め、馬克とフランの相場を従來通り、一佛蘭西フラン＝五布と決めた。

(ロ) 爲替管理

アルサス及ローレンスに於ては共に獨逸爲替規定を適用し、

アルサスに於ては一九四〇年十月二十五日の民政長官命令に依り一九四〇年十一月二日より有効とし、

ローレンスに於ては一九四〇年十月十九日の民政長官命令に依り一九四〇年十月二十五日より有効とした。

爲替管理令の要旨は次の通りである。

- a、米弗紙幣、瑞西フラン紙幣、瑞典クローネ紙幣、金貨及金は一九四〇年十一月二十五日迄に届出で賣却交付する事を要す。
- b、其他左記の有價物は一九四〇年十一月二十五日迄に信用金庫に届出で請求に應じ賣却する事を要す。
 - (1) 外國支拂手段 (佛貨を除く)
 - (2) 外貨債權
 - (3) 外國宛内國通貨手形及小切手
 - (4) 外國有價證券
 - (5) 獨逸内の信用機關又は郵便爲替局への預金
 - (6) 内國有價證券 (内國とは獨逸領土、アルサス、ローレンス及ルクサンブルを云ふ)、但しアルサス、ロー

レンス及ルクサンブールに於て一九四〇年八月一日以前に取得したものに限る。

尙、アルサス及ローレンスに獨逸爲替管理法を適用すると共に獨逸・アルサス間、獨逸・ローレンス間の支拂に對する制限禁止を撤廢した。

右の如くアルサス及ローレンスもルクサンブール同様併合はして居ないが併合地同様の措置を取つて居る。

三、獨逸併合地及占領地の通貨工作日誌

塊 太 利

一九三八年

三月十三日 塊太利併合。

三月十七日 塊太利シリングと馬克併用。一馬克＝一志五グロツシエン。

同 塊太利銀行をライヒスバンクに引繼。

三月十九日 ウインに爲替所設立令公布。

三月二十四日 塊太利貨幣を輸出禁止。

三月三十日 獨逸政府は塊太利貨幣の獨逸輸入を禁止す。

四月二十三日 塊太利に獨逸貨幣法を適用し馬克を法貨と定む。但し硬貨の流通を認む。

四月二十五日 塊太利銀行紙幣を流通停止。

四月二十九日 塊太利に獨逸トランスファ・モラトリアム法適用。

五月十五日 此日迄塊太利銀行紙幣の引替に應ず。

六月十六日 百及二十五志金貨、五及二志銀貨の流通を禁止。

七月十五日 此日迄百及二十五志金貨の引替に應ず、換算率三志 \parallel 二馬克。

八月二日 書替命令公布。商人の財産目録、帳簿殘高、會社資本金及株式等を馬克に書替へる事を命ず。

十二月三十一日 此日迄五及二志銀貨の引替に應ず、換算率三志 \parallel 二馬克。

一九三九年

一月一日 獨逸爲替管理法適用實施。

同 奧太利銀行紙幣無効となる。

十月一日 一志并に五十、十、五グロツシエン硬貨及千クロネ硬貨の法貨たる事停止。

十二月三十一日 此日迄一志并に五十、十、五グロツシエン硬貨及千クロネ硬貨の引替に應ず。

ズデーテン・ドイツ地方

一九三八年

十月一日 獨逸に歸屬。

十月十日 クローネと馬克併用、換算率一クロネ \parallel 一二布。

十月十五日 ズデーテン・ドイツ地方にチエツコ貨幣の輸入禁止。

同 クローネ表示債務關係を馬克に書替を命ず、換算率一クロネ \parallel 一二布。

十月二十六日 獨逸爲替管理法及トランスファ・モラトリアム法適用。

十月三十一日 チエツコ貨幣の法貨たる事停止。但しチエツコ・スロバキア補助硬貨及十、二十、五十クロネ紙幣は當分流通を認む。

十一月十五日 此日迄チエツコ紙幣の引替に應ず、換算率一クロネ \parallel 一二布。

同 チエツコ・スロバキア補助硬貨及十、二十、五十クロネ紙幣の流通停止。

十一月三十日 此日迄チエツコ・スロバキア補助硬貨及十、二十、五十クロネ紙幣の引替に應ず、換算率一クロネ \parallel 一二布。

一九三九年

二月九日 書替命令公布、財産目録其他馬克に書替へる事を命ず。

ボヘミア・モラビア保護領

一九三九年

三月十六日 獨逸保護領となる。

同 クローネと馬克併用。

三月二十二日 クローネと馬克換算率を一クロネ \parallel 一〇布と定む。

一九四〇年

十月一日 法律を以て一クロローネの價値を獨貨十布と定む。

メーメル地方

一九三九年

三月二十三日 獨逸に併合。

同 馬克のみ法貨と定む、換算率一リタス \parallel 四〇布。

三月二十九日 獨逸爲替管理法適用。

四月二十一日 リタス貨を同年五月二十日迄に引替へるべき旨公布。換算率一リタス \parallel 四〇布。

同 リタス表示債務關係を馬克に書替命令公布。換算率一リタス \parallel 四〇布。

五月五日 書替命令公布。商人の財産目録、會社資本金、株式等を馬克に書替を命ず。

五月二十日 此日迄リスアニア貨幣の馬克引替に應ず。

ダンチヒ市

一九三九年

九月一日 獨逸に復歸。

同 グルデンと馬克併用、換算率一グルデン \parallel 七〇布。

同 物價、貨銀をグルデンと馬克を以て表示すべき旨を命令。

同 ダンチヒ貨のダンチヒ輸入禁止。

同 ダンチヒ貨表示債務關係を馬克に書替命令公布。換算率一グルデン \parallel 七〇布。

九月二十二日 獨逸爲替管理法適用實施。

同 ダンチヒ市に爲替所設立。

九月三十日 グルデンの法貨たる事停止。但し硬貨の流通を認む。

十月十五日 此日迄グルデン貨の引替に應ず、換算率一グルデン \parallel 七〇布。

但し一グルデン、五十、十、五ダンチヒ布硬貨は一グルデン \parallel 七〇布、二及一ダンチヒ布は獨貨二及一布と同價にて流通を認む。

十月二十四日 十及五ダンチヒ布硬貨も獨貨十及五布と同價に定む。

一九四〇年

一月十六日 書替命令公布。商人の財産目録、會社の資本金及株式等の馬克に書替を命ず。

六月二十五日 一グルデン及五十ダンチヒ布硬貨を無効とす。

七月二十五日 此日迄一グルデン及五十ダンチヒ布硬貨の引替に應ず。

十一月一日 十、五、二及一ダンチヒ布硬貨を無効とす。

十一月三十日 此日迄十、五、二及一ダンチヒ布硬貨の引替に應ず。

波 蘭

一九三九年

- 九月一日 波蘭に實力行使。
- 九月三日 英佛對獨宣戰布告。
- 九月七日 東上部シレシアにゾロテールと馬克併用、換算率一ゾロテール＝五〇布。
- 同 東上部シレシアに爲替管理令公布。
- 九月十一日 其他波蘭占領地にゾロテールと馬克併用、換算率一ゾロテール＝五〇布。
- 同 其他波蘭占領地に爲替管理令公布。
- 九月二十三日 其他波蘭占領地に信用金庫設立令公布。
- 九月二十九日 獨ソ協定に依り波蘭分割。
- 十月二日 其他波蘭占領地に信用金庫證券發行。
- 十月七日 軍司令官命令に依り東上部シレシア及其他占領地に爲替管理令公布。
- 十月八日 東上部シレシアに於てゾロテールの法貨たる事停止。但し硬貨の流通を認む。
- 同 總統令を以て東上部シレシアを含む舊獨領を獨逸に編入し、之を東部地方と名付く。
- 十月十二日 東部地方以外の波蘭占領地に總督を任命し之を總督府と名付く。

一九四〇年

- 十月十五日 此日迄東上部シレシアに於けるゾロテール貨の引替に應ず。
- 十月二十六日 但し一ゾロテール、一、二、五、十、二十及五十グルツシエン硬貨の流通を認む。
- 十一月一日 事實上總督府出來た。
- 十一月二十日 東部地方の信用金庫をライヒスバンクに引繼ぎ、信用金庫證券の發行停止。
- 十一月二十八日 東部地方に獨逸爲替管理法及トランスファ・モラトリアム法適用實施。
- 同 東部地方に於てゾロテールの法貨たる事停止。
- 同 東部地方に於て信用金庫證券使用停止。
- 十二月九日 東部地方に於て馬克のみ法貨と定む。但し硬貨の流通を認む。
- 十二月十五日 此日迄東部地方に於てゾロテール貨の引替に應ず。換算率二ゾロテール＝一馬克。
- 同 但し五、十、二十及五十グルツシエン硬貨并に一ゾロテール硬貨は二ゾロテール＝一馬克、一及二グルツシエン硬貨は獨貨一及二布と同價にて流通を認む。
- 同 總督府に新波蘭發行銀行設立、同時に信用金庫の權能喪失。
- 同 新波蘭發行銀行業務開始。
- 同 總督府に於て信用金庫を解散し業務を新波蘭發行銀行に引繼ぐ。
- 同 總督府の法貨を新波蘭發行銀行紙幣のみと定め、舊ゾロテールと新ゾロテール換算率を

一對一と定む。(但し舊波蘭の小額硬貨は猶有効の様である)。

四月二十三日

新波蘭發行銀行に對し硬貨の鑄造權賦與。(五十、二十及十グルツシエン硬貨鑄造)。

五月三十一日

總督府に於て此日迄舊ツロテーを新ツロテーに引替に應ず。

六月十四日

東部地方に於けるツロテー表示債務關係を馬克に書替命令。

十一月一日

東部地方に於て一ツロテー、一、二、五、十、二十及五十グルツシエン硬貨を無効とす。

十一月三十日

此日迄東部地方に於て一ツロテー、一、二、五、十、二十及五十グルツシエン硬貨の引替に應ず。但し五、十、二十及五十グルツシエン硬貨并に一ツロテー硬貨は二ツロテー \parallel 一馬克、一及二グルツシエン硬貨は一ツロテー \parallel 一馬克の換算率とす。總督府に於て爲替證明なき限り輸入通關禁止。

十二月十五日

一九四一年

二月三日

東部地方に於て書替命令を公布し商人の財産目録、會社資本金及株式等を馬克に書替を命ず。

オイペン、マルメデー及モレスネ

一九四〇年

五月十八日

獨逸に復歸。

六月一日

獨逸爲替管理法及トランスファ・モラトリアム法適用實施。

六月六日

ベルガと馬克併用。換算率一ベルガ \parallel 五〇布。

同

ベルガ債務關係を馬克に書替命令公布。換算率一ベルガ \parallel 五〇布。

同

白耳義貨幣のオイペン、マルメデー及モレスネへの輸入禁止。

六月三十日

ベルガの法貨たる事を停止し、當日迄馬克に引替へる事を命ず。換算率一ベルガ \parallel 五〇布。

十月八日

書替命令公布。商人の財産目録、會社資本金、株式等を馬克に引替を命ず。

丁 抹

一九四〇年

四月九日

獨軍コペンハーゲン占領。

五月三日

信用金庫證券使用に關する命令公布。

六月二十五日

通貨及有價證券の輸出入制限令公布。

七月一日

外國商品の輸入を許可制とす。

八月二十七日

信用金庫證券發行停止。

同 獨・丁間清算相場を一丁抹クローネ〓四八布と定む。

諾威

一九四〇年

四月九日 獨軍オスロ占領。

五月三日 信用金庫證券使用に關する命令公布。

六月十二日 信用金庫證券發行停止。

七月十七日 爲替管理實施。

九月三日 信用金庫證券相場を獨・諾間清算相場同様一諾威クローネ〓五七布と定む（最初六〇布）

和蘭

一九四〇年

五月十日 獨軍ヘーグ占領。

同 信用金庫證券使用、之を法貨と聲明し、換算率を一ギルダー〓一馬克五〇布に法定。

同 銀行モラトリアム實施。

同 和蘭政府爲替管理令公布。

五月十五日 和蘭降伏。

同 信用金庫證券使用に關する命令公布。

六月十一日 銀行モラトリアム解除。

六月二十四日 和蘭政府は獨逸爲替管理法に見習ひ新に爲替管理令公布。

七月十六日 信用金庫證券相場を一ギルダー〓一馬克三三布に改む（最初一ギルダー〓一馬克五〇布）

十一月一日 獨逸政府は獨逸、和蘭間の爲替管理を緩和し、旅行者は一ヶ月一千馬克又は七百五十ギルダー迄自由、支拂關係五千馬克迄自由とす。

一九四一年

三月三十一日 獨逸、和蘭間清算勘定閉鎖。

四月一日 獨逸、和蘭間の爲替境界撤廢、兩地間の支拂を自由とす。

同 ギルダーと馬克の相場を一〇〇ギルダー〓一三二馬克七〇布と定む。

同 獨逸政府は和蘭貨幣を和蘭以外の外國より輸入する事を禁止す。

白耳義

一九四〇年

五月十日 獨軍白耳義侵入。

同 信用金庫證券使用、相場を白耳義フラン \parallel 一〇布と定む。

五月十三日 銀行モラトリアム實施。

五月十五日 信用金庫證券使用に關する命令公布。

五月二十八日 白耳義降伏。

六月二十七日 新發行銀行設立令公布。

七月十日 獨・白間清算協定復活。

七月十三日 新發行銀行業務開始。

七月十六日 信用金庫證券相場を白耳義フラン \parallel 八布に改む（最初白耳義フラン \parallel 一〇布）

八月十七日 銀行モラトリアム解除。

八月二十八日 ルクサンブールは爲替法上外國となりたる爲めルクサンブールに對し爲替制限實施。

十月十一日 當日以後新發行銀行は獨逸軍隊に對し白耳義貨供給。

同 信用金庫證券發行停止。

一九四二年

七〇

四月二十八日 命令に依り信用金庫硬貨一〇布及五布は無効となる。

ルクサンブール

一九四〇年

五月十日 信用金庫證券使用其相場をルクサンブール・フラン \parallel 一〇布と定む。

五月十一日 ルクサンブール全土占領。

五月十五日 信用金庫證券使用に關する命令公布。

六月十四日 信用金庫證券相場をルクサンブール・フラン \parallel 一二布に改む。

七月二十二日 ルクサンブール・フラン及信用金庫證券を法貨と定め、換算率をルクサンブール・

フラン \parallel 一〇布に改む。

八月七日 獨逸民政長官任命。

八月二十六日 獨逸貨幣領域に編入、馬克を法貨と定む。

八月二十八日 獨逸爲替管理法適用實施。

一九四一年

二月五日 ルクサンブール・フラン、白耳義フラン及信用金庫證券を無効とす。

同 ルクサンブール及白耳義フラン表示債務關係を馬克に書替命令公布。

七一

三月一日 此日迄ルクサンプール及白耳義フランの引替に應ず。換算率一ルクサンプール・フラン \parallel 一〇布、一白耳義フラン \parallel 八布。

佛 蘭 西

一九四〇年

五月十五日 信用金庫證券使用に關する命令公布。
 五月十七日 獨軍マヂノ線突破。
 同 信用金庫證券相場を一フラン \parallel 五布半と定む。
 六月十日 佛蘭西銀行其他信用機關巴里逃亡。
 六月十四日 獨軍巴里入城。
 六月十七日 佛蘭西降伏。
 六月二十二日 獨佛停戰協定調印。
 七月十五日 銀行モラトリアム解除。
 七月 中 頃 市中銀行巴里に戻る。
 七月 末 巴里大體平常に復す。
 八月十四日 獨逸軍司令官命令に依り爲替管理令公布。

八 月 中 頃 通貨取引順調となる。
 八月二十五日 佛蘭西占領費を協定に依り五百億フランと定む。
 八月二十九日 佛蘭西占領費を協定に依り六百五十億フランと定む。
 十二月一日 爲替局を新設し爲替管理及爲替清算事務を取扱ふ事となる。
 十二月十七日 佛蘭西占領費を協定に依り七百五十億フランと定む。

一九四一年

四月二十八日 命令に依り信用金庫硬貨一〇布及五布無効となる。
 五月七日 獨逸軍占領費用を一日三億フランに減額(最初四億フラン)。

アルサス及ローレンス

一九四〇年

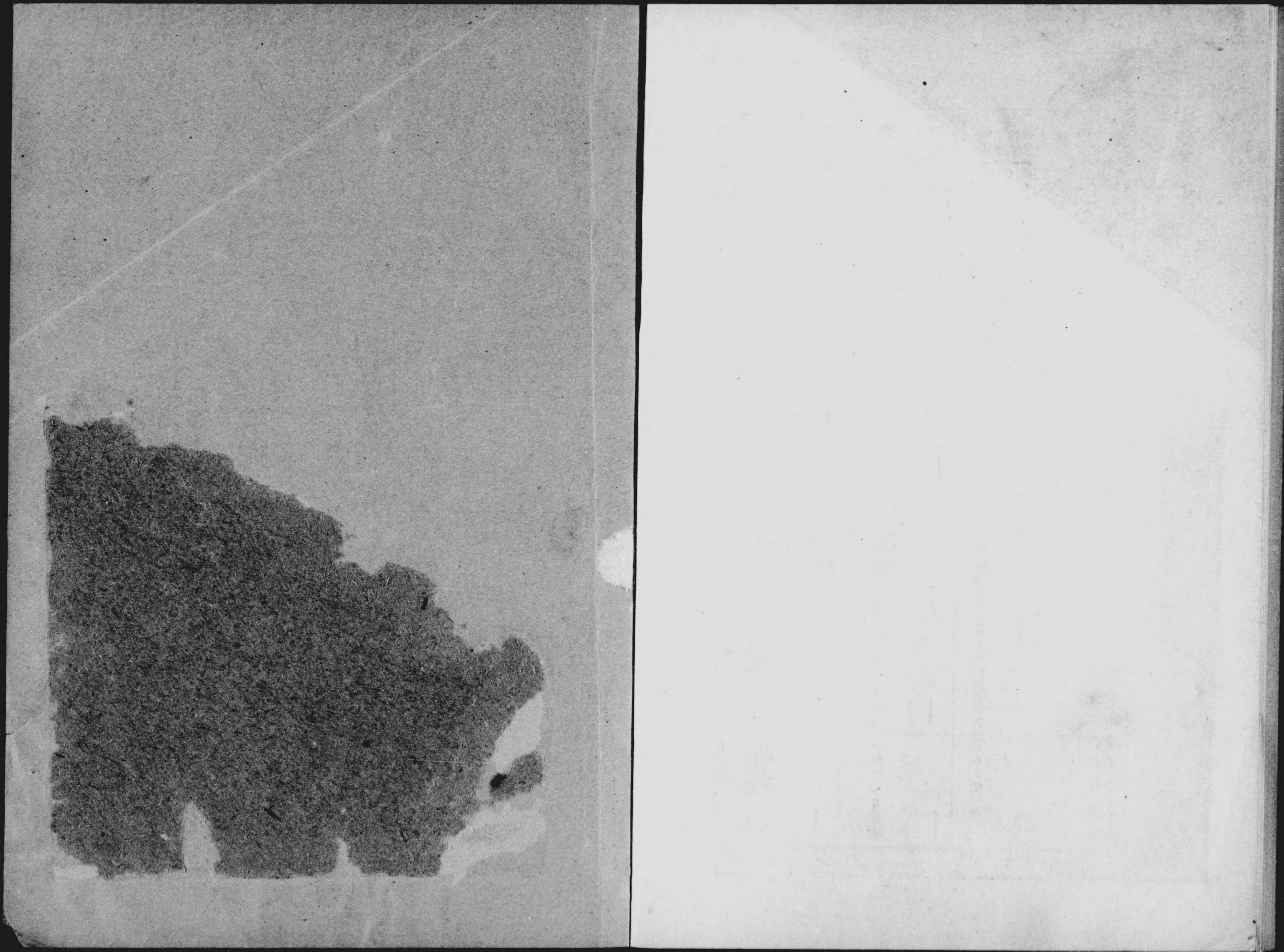
八月七日 獨逸民政長官任命。
 八月九日 獨逸貨幣法を適用し馬克を法貨と定む。換算率一佛蘭西フラン \parallel 五布。
 十月二十五日 ローレンスに獨逸爲替管理法實施。
 同 獨逸、ローレンス間の支拂制限撤廢。
 十一月二日 アルサスに獨逸爲替管理法實施。
 同 獨逸、アルサス間の支拂制限撤廢。

四、獨逸併合地及占領地の貨幣現狀一覽表

地域名	現在法貨	*法貨に定めた時	流通信用金庫証券	信用金庫証券相場	馬克と商業相場の
奥太利	馬克	一九三八年四月二十三日	發行せず		
ズデーテン・ドイツ	馬克	一九三八年十月三十一日	發行せず		
ボヘミア・モラビア保護領	クローネ及馬克	一九三九年三月十六日	發行せず		一クローネ 一〇布
メーメル地方	馬克	一九三九年三月二十三日	發行せず		
ダンチヒ市	馬克	一九三九年九月三十日	發行せず		
東部地方	馬克	一九三九年十一月二十八日	一九三九年十一月廿日使用停止		
總督府	新波蘭發行銀行發行ツロテ	一九四〇年四月八日	一九四〇年四月八日信用金庫解散		一ツロテ 一五〇布
オイペン、マルメデ	馬克	一九四〇年六月三十日			
一及モレスネ	馬克				
丁抹	丁抹クローネ		一九四〇年八月二十七日發行停止	一丁抹クローネ 一五〇布	一丁抹クローネ 一四八布二六
諾威	諾威クローネ		一九四〇年六月十二日發行停止	一諾威クローネ 一五七布	一諾威クローネ 一五六布八二

和蘭	ギルダ		殆ど回收さる	一ギルダ 一馬克三三布	一ギルダ 一馬克三二七
白耳義	白耳義フラン		一九四〇年十月十一日發行停止	一白耳義フラン 一八布	一白耳義フラン 一二布五〇
ルクサンブール	馬克	一九四〇年八月二十六日	硬貨無効となる		
佛蘭西	フラン		一九四一年四月二十八日信用金庫硬貨無効となる	一フラン 一五布	一フラン 一五布
アルサス及ローレンス	馬克	一九四〇年八月九日			

*法貨に定めた時とは最初被併合地又は被占領地貨幣と馬克或は信用金庫證券を併用したが最後に馬克のみを唯一の法貨に定めた時を指す。
但しボヘミア・モラビアはクローネと馬克、總督府は新ツロテのみを法貨と定めた時。



工+2E-61

(株式會社開明堂印行)

